

# 一般科目

## 1. 概要

21世紀を迎えた現代は、過去のどの時代にも見られないほど科学・技術が発達し、また国際化が進んできた。それに比して、人間性はむしろ希薄となり、個人の能力を超えて発達していく科学・技術によって従来の価値観が変えられ、その急激な変化にとまどいを感じている人が少なくない。一方、教育現場では対人関係やアイデンティティの問題にうまく適応できない学生をはじめ、新たに様々な問題が生じているのが現状である。

いかに科学・技術が発達しても、その科学・技術を用いる人間そのものが、優れた識見と豊かな人間性を備えていなければならないということは過去の歴史が明確に示しているところである。ところが、今日の社会では、すべての分野で細分化と専門化が進行しており、その結果、学校教育もまた細分化、専門化がなされている。これは全人教育という面において少し軽視される状況が出てきているのではないかと我々は危惧している。

そうした点から、本校においては「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成（学校教育法第70条の2、本校学則第1条）」する専門教科とあいまって、豊かな人間性と優れた識見を備えた学生を育成することが、一般教科に課せられた教育理念と捉えている。

本校の校訓には「志操高く、視野広く、身体たくましく、基礎学力を深め、創造的能力を磨き、汝の使命の達成に命をかけて生きよ」と謳っているが、まさにこれこそ、一般教科の目指す目標なのである。

高等専門学校は、中学校を卒業した若い15歳の学生を受け入れ、僅か5年間で社会人として必要な一般教養を修得させ、専門の学芸と職業に必要な能力を身につけさせ、専門の技術者として実社会へ送り出さなければならないので、大学等に比して一般教科の任務は重大である。

更に、一般教科では新指導要領によるゆとり教育等の導入を踏まえて、教科内容を点検し、見直しすることが行われている。

## 2. 授業内容

本校の一般科目では、人間教育、人格形成を重視し、志操高く、視野広い人間を育成するために、国語、歴史、哲学、倫理・社会、政治・経済、法学、地理の緒科目、健全な心身を形成するために体育科目、豊かな情操を育てるために美術、音楽、書道の芸術科目、さらに、専門教育につながる基礎学力の向上を図るものとして、数学、物理、化学の緒科目が課されている。また、ますます国際化していく社会に適応できる人間を育成するために、英語、ドイツ語の外国語を重視しており、特に、数学においては習熟度別授業を導入することによりきめの細かい指導を行っている。これにより、従来不足しがちであった演習を積極的に取り入れた授業を行うことに努めている。

## 一般科目

(平成16年度以降入学者)

授 業 科 目		単位数	学 年 別 単 位 数					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国 語	6	3	3				
	国 語 A	2			2			
	国 語 B	1			1			
	倫 理 ・ 社 会	2		2				
	政 治 ・ 経 済	2			2			
	歴 史	4	2	2				
	地 理	2	2					
	数 学	基礎数学Ⅰ	4	4				
		基礎数学Ⅱ	4	2	2			
		微分積分学	6		4	2		
		応用解析学	4			4		
	物 理	5	3	2				
	化 学	5	3	2				
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1	
	音 楽	2	1	1				1科目2単位を 選択必修
	美 術	2	1	1				
	書 道	2	1	1				
	英 語 I	8	2	3	3			
	英 語 II	6	2	2	2			
	英 語 III	1	1					
	計	74	28	26	18	1	1	
	文 学 特 論	1				1		
	社 会 特 論	1					1	
	自 然 特 論	1					1	
	英 語 特 論	1				1		
	数 学 概 論 I	1				1		
	数 学 概 論 II	1				1		
	数 学 概 論 III	1					1	
	英 語 IV	2				2		
	英 語 V	1					1	
	英 語 VI	1					1	
選択科目	独 語 I	2				2		
	独 語 II	2					2	
	中 国 語 I	2				2		
	中 国 語 II	2					2	
	哲 学	2				2		
	法 学	2					2	
	履 修 単 位 数	75以上	28	26	18	3以上		

## 一般科目

(平成15年度入学者)

授 業 科 目		単位数	学 年 別 単 位 数					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国 語	6	3	3				
	国 語 A	2			2			
	国 語 B	1			1			
	倫 理 ・ 社 会	2		2				
	政 治 ・ 経 済	2			2			
	歴 史	4	2	2				
	地 理	2	2					
	数 学	基礎数学Ⅰ	4	4				
		基礎数学Ⅱ	4	2	2			
		微分積分学	6		4	2		
		応用解析学	4			4		
	物 理	5	3	2				
	化 学	5	3	2				
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1	
	音 楽	2	1	1				1科目2単位を 選択必修
	美 術	2	1	1				
	書 道	2	1	1				
	英 語 I	8	2	3	3			
	英 語 II	6	2	2	2			
	英 語 III	1	1					
	計	74	28	26	18	1	1	
選択科目	文 学 特 論	1				1		
	社 会 特 論	1					1	
	自 然 特 論	1					1	
	英 語 特 論	1				1		
	数 学 概 論 I	1				1		
	数 学 概 論 II	1				1		
	数 学 概 論 III	1					1	
	英 語 IV	2				2		
	英 語 V	1					1	
	英 語 VI	1					1	
	独 語 I	2				2		
	独 語 II	2					2	
	中 国 語 I	2				2		
	中 国 語 II	2					2	
	哲 学	2				2		
	法 学	2					2	
履 修 単 位 数		75以上	28	26	18	3以上		

## 一般科目

(平成14年度入学者)

授 業 科 目		単位数	学 年 別 単 位 数					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国 語	6	3	3				
	国 語 A	2			2			
	国 語 B	1			1			
	倫 理 ・ 社 会	2		2				
	政 治 ・ 経 済	2			2			
	歴 史	4	2	2				
	地 理	2	2					
	数 学	基礎数学Ⅰ	4	4				
		基礎数学Ⅱ	4	2	2			
		微分積分学	6		4	2		
		応用解析学	4			4		
	物 理	5	3	2				
	化 学	5	3	2				
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1	
	音 楽	2	1	1				1科目2単位を 選択必修
	美 術	2	1	1				
	書 道	2	1	1				
	英 語 I	7	2	2	3			
	英 語 II	6	2	2	2			
	英 語 III	2	1	1				
	計	74	28	26	18	1	1	
	文 学 特 論	1				1		
	社 会 特 論	1					1	
	自 然 特 論	1					1	
	英 語 特 論	1				1		
	数 学 概 論 I	1				1		
	数 学 概 論 II	1				1		
	数 学 概 論 III	1					1	
	英 語 IV	2				2		
	英 語 V	1					1	
	英 語 VI	1					1	
	独 語 I	2				2		
	独 語 II	2					2	
	中 国 語 I	2				2		
	中 国 語 II	2					2	
	哲 学	2				2		
	法 学	2					2	
履 修 単 位 数		75以上	28	26	18	3以上		

## 一般科目

(平成13年度入学者)

授 業 科 目		単位数	学 年 別 単 位 数					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国 語	9	3	3	2	1		
	倫 理 ・ 社 会	2		2				
	政 治 ・ 経 済	2			2			
	歴 史	4	2	2				
	地 理	2	2					
	数 学	基礎 数 学 I	4	4				
		基礎 数 学 II	4	2	2			
		微 分 積 分 学	6		4	2		
		応 用 解 析 学	4		4			
	物 理	5	3	2				
	化 学	5	3	2				
	保 健 ・ 体 育	10	3	3	2	1	1	
	音 楽	2	1	1				1科目2単位を 選択必修
	美 術	2	1	1				
	書 道	2	1	1				
	英 語 I	8	2	2	2	2		
	英 語 II	6	2	2	2			
	英 語 III	2	1	1				
	独 語 I	2			2			
	計	77	28	26	18	4	1	
	文 学 特 論	1				1		
	社 会 特 論	1					1	
	自 然 特 論	1					1	
	英 語 特 論	1				1		
	数 学 概 論 I	1				1		
	数 学 概 論 II	1				1		
	数 学 概 論 III	1					1	
	英 語 IV	2					2	
	英 語 V	1					1	
	独 語 II	2				1	1	
	哲 学	2				2		
	法 学	2					2	
履 修 単 位 数		77以上	28	26	18	4以上	1以上	

[第 1 学年]

科目名	国語			担当教員	富士原伸弘		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20010	単位区別	履修単位
学習目標	中学までの国語学習の基礎の上に、日本語(母語)による言語活動(読む・書く・話す・聞く)を通して、それらの能力を高める。近代文学・古文・漢文の基礎知識を身に付け、理解・鑑賞できる能力を養う。						
進め方	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。特に、学習目標のうち、A1, B1, B2の項目に重点をおいて授業を進める。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 シラバス説明・国語概要解説	(1)					
	2 評論「オカネでは買えぬもの」「ガリヴァーとアリス」	(6)		先入観に囚われない柔軟な思考を養う。	A3:4, B1:1-2		
	3 話す聞く スピーチ	(2)		自分の考えを相手に正しく伝える。	B2:1-2		
	4 古文「児のそら寝」古文入門	(6)		日本古典に触れて人間と文化を考える。	A1:3, A3:2		
	5 漢文「訓点・格言・故事」漢文入門	(6)		中国古典に触れて人間と文化を考える。	A1:3, A3:2		
	6 前期中間試験	(1)					
	7 答案返却	(1)					
	8 随想「りんごのほっぺ」	(7)		戦争について学ぶ。	A3:4		
	9 古文「徒然草」	(6)					
	10 漢文「論語」	(6)					
	11 話す聞く・書く プレゼンテーションと報告	(2)		共同作業と要領よく説明する術を学ぶ。	B3:1-3		
	12 前期期末試験	(1)					
	13 答案返却	(1)					
	14 プレゼンテーション演習	(2)		プレゼンテーションを実習する。	C1:4, C4:1-2		
	15 評論「爆弾のような問い」	(6)		多様な視点の取り方を考える。	B1:1-2		
	16 古文「折々のうた」	(6)					
	17 漢文「史話」	(6)					
	18 後期中間試験	(1)					
	19 答案返却	(1)					
	20 評論「自己基準と他者基準」	(6)					
	21 古文「伊勢物語」	(6)					
	22 漢文「唐詩」	(6)					
	23 話す聞く ディベート	(2)		発言者の意図を正しく理解できる。	B1:3		
	24 学年末試験	(1)					
	25 答案返却	(1)					
評価方法	年4回の定期試験80％, および毎週の小テスト10％, レポート・提出物等10％の比率で総合評価する。						
関連科目	特になし。						
教材	教科書:「新編国語総合」東京書籍 副教材:「ポイント整理常用漢字の学習」明治書院, 「カラー版新国語便覧」第一学習社						
備考	特になし。						

科目名	歴史			担当教員	内田由理子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20040	単位区別	履修単位
学習目標	我が国の歴史の展開を，我が国を取り巻く国際環境などとも関連づけながら世界史的視野に立って総合的に考察させ，我が国の文化，伝統の特色についての認識を深めさせることによって，歴史的思考力と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。						
進め方	地球的視点から多面的に物事を考える能力：我が国の歴史の展開を，世界史的視野に立って多面的・多角的に考察する能力を育成する。与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力：多様な資料に親しみコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用するなど，情報や技術を主体的に活用する学習活動を重視するとともに，観察・見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりする作業的・体験的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。						
履修要件							
	学習項目			(時間数)	学習到達目標		
学習内容				(2)	年間の授業を通して，学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく		
	1 原始社会の生活と縄文文化			(2)	縄文・弥生文化の時代の日本列島における人類の生活の発展及び社会生活の変化について学ぶ A1:3		
	2 農耕社会の形成と弥生文化			(2)			
	3 大和政権と古墳文化			(1)			
	4 古代国家の確立と飛鳥・白鳳文化			(4)			
	5 古代国家の成立と天平文化			(2)	大和政権による統一，律令に基づく古代国家の成立と国家体制の推移及び文化の形成について		
	6 平安初期の政治と文化			(2)	東アジア世界の動きとも関連付けて学ぶ A1:3		
	7 前期中間試験			(1)			
	8 試験返却，摂関政治と国風文化			(3)	律令体制の動揺に伴う地方の動向と国風文化の成立について学ぶ A1:3		
	9 院政と平氏政権			(2)			
	10 武家社会と鎌倉文化			(2)			
	11 室町幕府の確立と北山文化			(2)	鎌倉時代の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について学ぶ A1:3		
	12 下剋上の社会と東山文化			(3)			
	13 大航海時代の余波			(1)	ヨーロッパ文化との接触とその社会や文化への影響を学ぶ A1:3		
	14 前期期末試験			(1)			
	15 試験返却，授業評価アンケート，統一政権の成立と桃山			(4)			
	16 幕藩体制の成立と転換			(4)	織豊政権及び幕藩体制の特色と推移，文化の動向について，国際関係の変化とその社会や文化への影響を学ぶ A1:3		
	17 町人文化の展開			(1)			
	18 開国と社会の変動			(1)	開国とその影響，幕府の同僚及び滅亡，明治維新について学ぶ A1:3		
	19 倒幕から明治維新			(3)			
	20 後期中間試験			(1)			
	21 試験返却，欧米文化の導入と明治維新			(4)			
	22 自由民権運動の展開と議会政治の開始			(3)	欧米文化の影響と近代化の推進，立憲体制の成立と政治思想，国際関係の推移と近代産業の発展について学ぶ A1:3		
	23 条約改正と日清・日露戦争			(2)			
	24 第一次世界大戦と日本の経済			(1)			
	25 政党政治の発展と大衆社会の成立			(1)			
	26 第二次世界大戦と日本			(1)	第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る20世紀前半の世界情勢と国内の動きについて学ぶ A1:3		
	27 戦後の諸改革と国民生活の変化			(1)	第二次世界大戦の終結から今日に至る世界の動向と日本の課題及び役割について学ぶ A1:3		
	28 現代の世界と日本			(1)			
	29 ものづくり教材ワーク			(3)	日本史の教材作成を通して歴史及び文化を学ぶ A1:3		
	30 学年末試験			(1)			
31 試験返却			(1)				
評価方法	定期試験，提出物（ノート，プリント，レポート類）や学習活動等で総合評価する						
関連科目	世界史，政治経済，地理						
教材	教科書：宮原武夫 他著「高校日本史B」実況出版						
備考	特になし						

科目名	地理			担当教員	細谷 守		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20050	単位区別	履修単位
学習目標	1. 地図・ノート・統計表等を利用して、現代社会の諸事象の展開を理解する。 2. 現代社会を教科書・書籍・マスメディアを通して関心を持って直視できる姿勢をつける。 3. 地球的課題が存在し、その解決のためには国際協力が必要であることを理解する。						
進め方	各学習項目ごとに、教科書・地図帳・ノート等を利用し、キーワードの確認・理解・延長へと学習内容を進めていく。 また、授業には参加型学習の形態を取り入れ、興味関心を強めるよう導く。そして、現代社会の問題点が地域から全体へ、過去から現代に通じるものであるという共時的、通時的考えを身につけさせることにより、我々の行動に責任が要求されていることを自覚させる。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 球面上の世界と地域構造	(2)	地図を利用し、世界の中での日本の位置の把握や領域等の現状を理解する。	A3:1			
	2 世界地図の種類と特徴	(2)		A3:1			
	3 時差の求め方	(2)					
	4 国家と地域区分	(2)					
	5 消費行動の変化と地域差	(2)	商業地理の現状を理解する。	A3:4			
	6 中国の生活・文化	(2)	近隣の生活と文化の実態を理解し、共生の考えを身につける。	A1:3			
	7 東南アジアの生活・文化	(2)		A1:3			
	8 前期中間試験	(1)					
	9 世界を結ぶ交通	(2)	人・物・情報の移動に伴う世界の結びつきを学ぶ。	A1:1			
	10 世界を一つに結ぶ通信	(2)		A3:1			
	11 国際化する人々の移動	(2)		A3:2			
	12 拡大する世界の貿易	(2)					
	13 さまざまな余暇活動	(2)					
	14 インドの生活・文化	(2)	IT先進地域としての背景と両国の問題点を理解する。	A3:2			
	15 アメリカ合衆国の生活・文化	(2)					
	16 前期期末試験	(1)					
	17 試験問題の解答と授業評価アンケート	(1)					
	18 世界の人口問題	(2)	現在の人口問題の解決策を考える。	A3:1			
	19 世界の食料問題	(2)	輸入食料に頼る問題点を考える。	A3:1			
	20 世界の都市・居住問題	(2)	都市開発のあり方を考える。	A3:4			
	21 世界の資源・エネルギー問題	(2)	資源問題の現状を理解する。	A3:1			
	22 西アジアの生活・文化	(2)	開発途上国の現状を通じて、異文化の特性を理解する。	A3:4			
	23 アフリカの生活・文化	(2)		A3:4			
	24 後期中間試験	(1)					
	25 世界の環境問題	(2)	環境問題に関心を深め、資源の有限性・地球船宇宙号の実態を学び、各国の協力による共生の大切さを把握する。	A1:2			
	26 近隣諸国の地域汚染への取り組み	(2)		A1:2			
	27 近隣諸国の森林破壊への取り組み	(2)		A1:2			
	28 ヨーロッパの生活・文化	(2)	さまざまな地域の特性を理解することで、相互理解の大切さと、各地域の幸福を願う姿勢を理解する。	A1:3			
	29 ロシアの生活・文化	(2)		A1:4			
	30 ラテンアメリカの生活・文化	(2)					
	31 韓国の生活・文化	(2)					
	32 学年末試験	(1)					
	33 試験問題の解答と地理の総括	(1)					
	34						
	35						
評価方法	定期試験 70%, 作業ノート・課題レポートの提出等 30% の比率で総合評価する。						
関連科目	倫理・社会, 歴史, 政治・経済						
教材	教科書：高橋 彰 他 著「高等学校 新地理A 初訂版」 教科書：山本正三 他 著「基本地図帳 改定版」 傍用問題集：帝国書院編集部 著「高等学校 新地理Aノート 初訂版」						
備考	特になし。						

科目名	基礎数学Ⅰ				担当教員	須那聡，谷口浩朗，南貴之，森岡茂						
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修		単位数	4				
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20060		単位区別	履修単位				
学習目標	あらゆる算法の基礎である文字式，方程式，集合等の基本的性質を理解し，計算に習熟する。また，多項式，分数式，無理式の表す関数から指数，対数関数まで，関数の考え方とそのグラフによる表現を学ぶ。さらに場合の数など代数，確率演算の基礎となる概念を学んで，2学年での微積分や線形代数への準備とする。											
進め方	各学習項目を講義し，適宜演習を実施する。高等課程の数学事項の多さと深さは中学校までと格段に異なり，単に授業毎に聞き，見て，わかった，というだけでは次第に追従できなくなる例が多く見られる。勤勉にノートを作成し，演算実習で十分に筆算練習し，予習復習を積み重ねなくては優れた理解と応用力は得られないことを厳しく理解して授業に臨んでほしい。											
履修要件	特になし											
	学習項目 (時間数)				学習到達目標							
学習内容	1 整式の加減法，整式の乗法 (4)				数と式（整式，有理式，無理式）の基本的性質を理解し，演算運用力を養う。 D1:2, 4							
	2 因数分解，整式の除法 (4)											
	3 剰余，因数定理 (4)											
	4 演習 (2)											
	5 分数式の計算，実数 (4)											
	6 平方根，複素数 (4)											
	7 演習 (2)											
	8 前期中間試験 (2)											
	9 2次方程式，解と係数の関係 (7)				方程式や不等式の扱いをより深く学ぶ。 D1:2, 4							
	10 色々な方程式，恒等式 (7)											
	11 等式の証明，演習 (7)											
	12 2次不等式，種々の不等式 (7)											
	13 前期期末試験 (2)											
	14 不等式の証明 (3)											
	15 集合，命題 (4)											
	16 演習 (3)											
	17 2次関数のグラフ (4)								関数とそのグラフを2次関数，分数関数や無理関数に即して学び，幾何学的な把握力の基礎とする。 D1:2, 4			
	18 最大最小 (3)											
	19 2次関数と2次不等式 (4)											
	20 べき関数，分数関数と無理関数 (3)											
	21 逆関数 (4)											
	22 累乗根，指数の拡張 (3)											
	23 指数関数 (4)											
	24 後期中間試験 (2)											
	25 対数 (4)				理論上も重要な指数関数と対数関数の性質とグラフを理解し，それによって新しく開かれる応用の世界を学ぶ。 D1:2, 4							
	26 対数関数，常用対数 (4)											
	27 演習 (4)											
	28 場合の数，順列 (4)											
	29 組み合わせ (4)				複雑で高度な組織を演算化し，確率的な見方を可能にするものとして，場合の数の様々な考え方と方法とを学び，演算応用に習熟する。 D1:2, 4							
	30 色々な順列，2項定理 (4)											
	31 演習 (4)											
	32 学年末試験 (2)											
	33 試験問題解答 (1)											
評価方法	定期試験90%，レポートなど10%で総合評価する。											
関連科目	基礎数学Ⅱ，基礎工学演習											
教材備考	教科書：高遠節夫他 著 「新訂 基礎数学」 大日本図書 問題集：田代嘉宏編 「新編 高専の数学1 問題集（第2版）」 森北出版 その他プリントなど											
	特になし											

科目名	基礎数学Ⅱ			担当教員	中空 大幸			
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修		単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20070		単位区別	履修単位
学習目標	三角関数は2学年以降の数学や物理，工学への応用が広い基本的な概念である。また，直線の方程式や円の方程式等も，2学年以降の勉強の基礎となる対象である。本授業では，三角関数および図形と式の関係を理解し，2学年以降の数学や物理，工学への応用ができるための基礎的な能力を身につけることを目標とする。							
進め方	教科書を基に講義した後，演習問題を多くこなすことにより，学力の定着に努める。中学校の数学とは異なり，進度もはやく，内容も難しくなるので，予習・復習を心がけること。							
履修要件								
	学習項目 (時間数)			学習到達目標				
学習内容	1 鋭角の三角比	(2)	三角比を理解し，基本的な三角比を求めることができる。					D1:2
	2 鈍角の三角比	(2)						
	3 三角比の相互関係	(2)						
	4 正弦定理	(2)	三角形に関する正弦定理や余弦定理等の公式が使えるようになる。					D1:2
	5 余弦定理	(2)						
	6 三角形の面積	(2)	三角形の面積が求められる					D1:2
	7 一般角の三角関数	(2)						
	8 前期中間試験	(1)						
	9 弧度法	(2)	弧度法を用いる事が出来る。					D1:1
	10 三角関数の性質	(2)	三角関数の意味を理解でき，基礎的な計算ができるようになる。					D1:1
	11 三角関数のグラフ	(2)	三角関数のグラフがかける。					D1:2
	12 三角関数を含む方程式・不等式	(2)						
	13 加法定理	(2)	加法定理などの諸公式が使えるようになる。					D1:4
	14 加法定理の応用	(2)						
	15 三角関数の合成	(2)						
	16 前期期末試験	(1)						
	17 試験問題の解答	(1)						
	18 三角関数のまとめと総合演習	(2)						
	19 2点間の距離	(2)	2点間の距離や直線の方程式など，図形と式に関して					D1:1，2
	20 直線の方程式	(2)	基本的事項を理解し，公式を適用して計算することができる。					
	21 重心	(2)						
	22 2直線の平行・垂直	(2)						
	23 総合演習	(2)						
	24 後期中間試験	(1)						
	25 円の方程式	(2)	円の方程式，楕円や双曲線等の方程式について理解し，それぞれの方程式を求めることができる。					D1:2
	26 楕円	(2)						
	27 双曲線	(2)						
	28 放物線	(2)						
	29 2次曲線の接線	(2)	円の接線について理解する。					D1:1
	30 不等式と領域	(2)	不等式と領域の関係を理解する。					D1:1
	31 総合演習	(2)	不等式の表す領域を図示することができる。					D1:2
	32 学年末試験	(1)						
	33 答案返却と解答	(1)						
評価方法	定期試験90%およびレポートや授業中の課題など10%の比率で総合評価する。							
関連科目	基礎数学I							
教材	教科書：高遠節夫他 著 「基礎数学」 大日本図書 問題集：田代嘉宏編 「新編 高専の数学1 問題集」 森北出版 教科書：高遠節夫他 著 「基礎数学」 大日本図書 問題集：田代嘉宏編 「新編 高専の数学1 問題集」 森北出版							
備考	特になし							

科目名	物理			担当教員	東田 洋次		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20100	単位区別	履修単位
学習目標	工学の基礎となる物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、数式として表現することで、科学的な考え方を定着させる。						
進め方	講義内容は概ね教科書の内容に従うが、以下のような順で講義を行うため、必ずノートをとること。 また、問題を各自に割り当てて発表させるとともに、必要に応じて宿題も課す。 一方、身近な材料を使った実験を取り入れ、物理現象が身近に感じられるように配慮する。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 有効数字と単位	(2)		速度、加速度を理解し、等速直線運動、等加速度直線運動に関する計算ができる。 D1:1, 2			
	2 速さと等速直線運動	(3)					
	3 変位と速度	(2)					
	4 加速度	(2)					
	5 等加速度直線運動	(4)		運動の3法則を理解し、直線運動に関する運動方程式を立てることができる。 D1:1, 2			
	6 運動の法則	(3)					
	7 いろいろな力	(3)					
	8 運動方程式の作り方	(2)					
	9 前期中間試験	(1)		運動量と力積を理解し、運動量保存則、跳ね返り係数を用いた計算ができる。 D1:1, 2			
	10 落下運動	(3)					
	11 摩擦と運動	(3)					
	12 運動量と力積	(2)					
	13 運動量保存則と跳ね返り係数	(4)		仕事の計算ができ、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。 D1:1, 2			
	14 仕事とエネルギー	(4)					
	15 力学的エネルギー保存則	(4)					
	16 前期末試験	(1)					
	17 ベクトルの合成分解と成分	(3)		ベクトルの合成分解ができ、成分を使って平面内の運動に関する計算ができる。 D1:2			
	18 力や速度の合成分解	(4)					
	19 平面運動の運動方程式・運動量・仕事	(4)					
	20 放物運動・斜面上の運動	(3)					
	21 等速円運動	(4)		力の向きが一定でない物体の運動に関する計算ができる。 D1:1, 2			
	22 惑星の運動と万有引力	(3)					
	23 単振動	(4)					
	24 慣性力	(2)					
	25 後期中間試験	(1)		温度、熱、熱平衡などの基本的な概念を理解し、熱量などの計算ができる。 D1:1, 2			
	26 剛体に働く力	(2)					
	27 流体に働く力	(2)					
	28 温度と熱	(2)					
	29 熱量保存則と比熱、熱容量	(3)		原子・分子の微視的な運動によって巨視的性質が決まることを説明できる。 D1:1, 2			
	30 気体の分子運動	(3)					
	31 内部エネルギー	(2)					
	32 熱力学第1法則	(4)					
	33 気体の状態変化	(3)		熱力学第1法則について理解し、基本的な状態変化についての計算ができる。 D1:1, 2			
	34 学年末試験	(1)					
	35 答案返却・解答	(1)					
評価方法	定期試験を70％、平常点（ノート、レポート、授業態度など）を30％の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書：三浦登 他 著 「物理Ⅰ」，「物理Ⅱ」 東京書籍 副教材：中村英二，吉沢康和 監修 「新訂物理図解」 第一学習社 問題集：第一学習社編集部 編 「セミナー物理Ⅰ＋Ⅱ」 第一学習社						
備考	特になし						

科目名	化学			担当教員 笠井健吉，長谷部一気			
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20110	単位区別	履修単位
学習目標	化学の基礎となる原子・分子概念，物質の定量的取り扱い，物質の性質、反応の量的関係，反応熱等々を理解させる。化学反応の具体例として，酸・塩基反応を取り上げ，その反応理由，中和滴定，そして塩の加水分解，塩の反応等々の学習から，より事実在即した化学的知識を教授する。この結果として，化学的世界理解，従って物質概念からの世界理解の方法を修得させることを目標とする。						
進め方	検定教科書を批判的に読み進め，講義ノート中心に講義を進める。想像しがたい事例については演示実験，実際に見せる，あるいは学生自身が副教材である化学図解を参照しながら理解する。学生実験としては塩化ナトリウムの定量的合成，中和滴定のみとする。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 原子・分子概念	(2)	化学における物質安定概念が原子分子の電子配置に関与していることを理解させる。	D1:3			
	2 電子殻(3)	(3)					
	3 元素の周期律	(3)					
	4 化学結合	(3)					
	5 極性・無極性	(2)					
	6 金属結晶構造	(3)					
	7 原子・分子発見史	(4)	原子分子発見史を理解することで，事実への接し方を理解させる。	D1:3			
	8 前期中間試験	(1)					
	9 原子量・分子量・式量	(3)					
	10 物質質量	(3)					
	11 反応式の書き方	(3)					
	12 反応における量的関係	(3)	反応式より量的関係を読み取れる様にし，定量実験への基礎を理解させる。	D1:3			
	13 前期期末試験	(1)					
	14 物質の三態	(3)					
	15 大気圧・蒸気圧	(3)					
	16 気体の状態方程式	(4)	気体の状態変化を状態方程式から予測できるようにする。	D1:3			
	17 実在気体	(3)					
	18 可溶・不溶	(3)	可溶，不溶関係の理由，そして溶解度を通して濃度という量が溶液の状態を表すものであることを理解させる。	D1:3			
	19 固体の溶解度	(3)					
	20 気体の溶解度	(3)					
	21 希薄溶液の性質	(3)					
	22 コロイド	(3)					
	23 後期中間試験	(1)					
	24 熱化学方程式	(3)	状態によってその物質が決まったエネルギーを持っていること，そして反応熱計算法3 種理解させる。	D1:3			
	25 反応熱計算法	(4)					
	26 酸・塩基の定義	(3)					
	27 電離度	(2)					
	28 水のイオン積	(3)					
	29 pH	(2)					
	30 中和反応	(3)	中和反応がなぜ生じるのか，また塩の水溶液が必ずしも中性でない理由を理解させる。酸塩基反応の定量的扱いを理解させる。	D1:3			
	31 塩の加水分解反応	(3)					
	32 中和滴定	(3)					
	33 塩の反応	(3)					
	34 学年末試験	(1)					
	35 試験返却	(1)					
評価方法	中間，及び定期試験結果を重視する。試験問題はノート重視に作成する。また，授業態度は総合評価の根拠と						
関連科目	数学，物理学						
教材	1. 検定教科書：精解化学Ⅰ（数研出版），精解化学Ⅱ（数研出版）， 2. スクエア最新図説化学（第一学習社）						
備考	注意：学年末試験を除く各試験範囲は学習項目順に従うが，授業進度は試験範囲に先行する						

科目名	保健・体育			担当教員	有馬弘智・本田正・齋藤茂樹		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	08G01_20120	単位区別	履修単位
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明したうえで、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。団体種目については、個人の基礎技術を修得したうえで、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 年間授業の概要説明	(1)	年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を	F2:1-4			
	2 集団行動	(1)	理解する。整列隊形や隊形変更など集団での行動を身	F1:1-4			
	3 スポーツテスト	(3)	につける。自分自身の運動能力を把握し、運動能力の				
	4 バレーボール	(12)	向上を目指す。				
	5 水泳	(6)					
	6 バスケットボール	(12)	個人種目では、各種目の基本の理論を理解し、反復練	F1:1-4			
	7 鉄棒	(8)	習を行うことでそれらの技術を修得できるようにする。	F3:1, 2			
	8 サッカー	(12)					
	9 保健	(5)	団体種目では、基礎技術の修得を中心に行う。また、	F1:1-4			
	10 *保健は、体育の授業の中に組み込む		簡易ゲームを行い、それらの技術をゲームの中で実践	F2:1-4			
	11 内容もある。		的に使えるようにする。	F3:1-5			
	12						
	13		いろいろな社会の環境を理解する。	A1:2, 4			
	14 (剣道)						
	15 年間授業の概要説明	(1)	年間計画を説明し、剣道の授業の目的や取り組む姿勢	F2:1, 2			
	16 礼儀作法について	(1)	を理解する。				
	17 心構えについて	(1)					
	18 道具の使い方	(1)	礼儀作法や剣道における心構えを理解し、精神面をし	F2:1, 2			
	19 基本動作の修得	(5)	っかりした上で、基本動作や対人的技能を修得する。	F3:1-3			
	20 対人的技能の修得	(12)					
	21 試合	(8)					
	22 実技試験	(1)					
	23						
	24						
	25 (柔道)						
26 年間授業の概要説明	(1)	年間計画を説明し、柔道の授業の目的や取り組む姿勢	F2:1, 2				
27 歴史および礼儀作法について	(1)	を理解する。					
28 心構えについて	(1)						
29 受け身の修得	(6)	礼儀作法や柔道における心構えを理解し、精神面をし	F2:1, 2				
30 立ち技の修得	(8)	っかりした上で、基本の受け身や技を修得する。	F3:1-3				
31 寝技の修得	(4)						
32 試合	(8)						
33 実技試験	(1)						
34		* 1年の体育は、週2時間は体育を行い、週1時間は					
35		格技として、剣道と柔道の選択授業を行う。					
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						

科目名	音楽			担当教官	穴吹昌子		
学年	1 年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義, 実技	科目番号	08G01 20130	単位区分	履修単位
学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。音楽に対する関心を高め、想像力豊かな有為な人格を育成する。						
進め方	・基礎的技能と表現能力を伸ばす。音に対する敏感な感性を育てる環境に配慮する。						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.発声の基本(1)			ストレッチの重要を学ぶ B2:1			
	2.校歌(2)			愛校心を育て、音による豊かな感性を育む B2:2			
	3.井上陽水の作品(3)			3~5. 良質の楽曲に出会い、その曲想にのって			
	4.ビートルズの作品(1)			声をたっぷりと出し、歌うことの楽しさを積極的に味わう B1:1			
	5.杉本竜一の作品(2)						
	6.主要音楽用語のテスト、答案解説(2)						
	7.聴音のテスト、答案解説(2)						
	8.ミュージカル作品(2)			8,9. ミュージカルの古今の名作に触れ、			
	9.映画音楽(2)			広く劇音楽というものへの興味、関心を高める A1:3			
	10.季節と歌う(1)						
	11.現代の日常耳にする楽曲(4)			現代性とポピュラリティーに的を絞って、音楽的、教育的価値を多角的に捉える。 B1:1			
	12.民族音楽(1)						
	13.日本の歌(5)			日本語の美しさを歯切れのよいすっきりとした発音と表情で歌う B2:1			
	14.鑑賞(1)						
	15.小論文(1)						
評価方法	授業態度、試験、実技点を総合評価する。						
関連科目	芸術科目						
教材	教科書：山本文茂著「改訂新版 高校生の音楽 1」 音楽之友社						
備考	特になし						

科目名	美術			担当教員	永井 崇幸		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	08G01_20140	単位区分	履修単位
学習目標	写実描写、構想画、デザイン画などの絵画表現や鑑賞を通して、創造力を伸ばし、豊かな感性と心情を養う。言葉では表現できないことを感じる美意識を深める。						
進め方	相対するイメージを比較することでその本質を見定め、イメージを膨らませて自己の表現を追求させる。						
履修条件							
	学習項目（時間数）			学習到達目標			
学習内容	1. 鉛筆デッサン— ペンを持った手（2）			鉛筆で明暗をつけ、手の立体感と質感を表現する。2つの異なる物質を表現する際には、質感や大きさなどが相互に関わりあうことを知る。E6:1			
	2. 記憶の絵地図（4） 着彩			自分がすごした幼児期・年少期を思い出し、他の人が見てわかりやすい表現をする。B2:1  自宅周辺をあらゆる絵画表現方法を使って、分かりやすく楽しい絵地図として表現する。B2:1			
	----- 3. 構成と表現  （1）「楽しい」と「悲しい」の表現（2） 着彩 （2）「寒い」と「暖かい」の表現（4） 着彩 （3）「明るい」と「暗い」の表現（6） 着彩  4. 精密描写（1 2） 鉛筆デッサン、着彩			枠の中に着色できる。混色が出る。比較することで観念的でないイメージを膨らませる。E6:1  身近にある工業製品の精密描写を試みることで機能美、材質の特性、ロゴマーク、配色などを学習し、立体的な表現ができる。B2:1  デッサンをして淡彩画の着色をする。E6:1			
	自らのイメージを豊かに膨らますことで、型に入らない新鮮な発想とそれを表現する手段を養うことは、未来を担う技術者の育成に重要である。						
評価方法	自己のイメージをどのように豊かに表現出来ているか。学習内容の全実技作品を時間数の割合で点数化して評価（90%）（作品が授業時数に相応しい内容で完成。60%）、制作態度（10%）を考慮して総合的に評価する。						
関連科目	特になし。						
教材							
備考	自主的に美術館・ギャラリーなど鑑賞した際のレポートは、随時受け付けます。スケッチブックと絵の具（アクリルガッシュ）を購入。（2年間使用）						



科目名	英語Ⅰ			担当教員	森 和憲		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20160	単位区別	履修単位
学習目標	本科目は、英語を読む、聞く、話す、書く上で、全ての基礎となる文法力を集中的に強化することを目指す。そのため本科目では、単に英文を暗記することによってではなく、数多くの応用問題を解きこなすことにより、帰納的に英文法への理解を深めるようなアプローチを取る。また、単語暗記テストを行うことにより、コミュニケーション能力の基礎となる語彙力を培うことも目標としている。						
進め方	1. 文法の演習問題を課題として与え、その解説を中心に授業を行う 2. 定期的に単語の暗記テストを行う 3. 定期的に英文法の小テストを行う						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 国際語としての英語について	(1)	英語の重要性について理解する				
	2 文型と動詞と時制	(2)	現在形と過去形を理解できる			B2:1	
	3 完了形 1	(2)	現在完了形・現在完了進行形を理解できる			B2:2	
	4 完了形 2	(2)	過去完了形・過去完了進行形を理解できる			B2:3	
	5 助動詞 1	(2)	助動詞の用法を理解する				
	6 助動詞 2	(2)					
	7 まとめ	(3)	既習項目の復習				
	8 前期中間試験、テスト返却	(1)					
	9 不定詞 1	(2)	不定詞を含む複雑な文章を理解する			B1:1	
	10 不定詞 2	(2)				B1:2	
	11 分詞 1	(2)	分詞の用法を理解する			B1:3	
	12 分詞 2	(2)					
	13 時制の一致 1	(2)	時制の一致を理解する			B2:1	
	14 時制の一致 2	(2)				B2:2	
	15 まとめ	(2)	既習項目の復習			B2:3	
	16 前期期末試験、テスト返却	(1)					
	17 態 1	(2)	受け身表現を理解できる			B1:1	
	18 態 2	(2)				B1:2	
	19 動名詞 1	(2)	動名詞を含む表現を理解できる			B1:3	
	20 動名詞 2	(2)					
	21 関係詞 1	(3)	関係詞の用法を理解する			B2:1	
	22 関係詞 2	(3)				B2:2	
	23 後期中間試験、テスト返却	(1)				B2:3	
	24 仮定法 1	(2)	日本語にはない仮定法の項目を理解する			B1:1	
	25 仮定法 2	(2)				B1:2	
	26 比較 1	(2)	比較級の文章を理解できる			B1:3	
	27 比較 2	(2)	最上級の文章を理解できる			B2:3	
	28 応用英文法	(3)	既習の英文法を応用した文章を理解する			B2:3	
	29 一年間のまとめ	(3)					
	30 学年末試験	(1)	既習項目の復習				
	31 テスト返却	(1)					
評価方法	中間・期末試験を80%、小テスト10%・提出物等を10%の比率で総合評価する。						
関連科目	英語Ⅰ 英語Ⅲ						
教材	教科書：桐原書店編集部：Intensive English Grammar in 27 Lessons (桐原書店) 英単語帳：田中茂範監修『DATABASE3000』(桐原書店) 演習問題集：桐原書店編集部：Intensive English Grammar Training Book (桐原書店) 安河内哲也『英文法レベル別問題集2 基礎編』(東進ブックス)						
備考	特になし						

科目名	英語Ⅱ			担当教員	鳥越秀知		
学年	1年		通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20170	単位区別	履修単位
学習目標	1. 幅広い話題について読んだことを理解し、考えを伝える能力を伸ばすことを目的とする。 2. 基礎的な英文法の知識を修得することを目指す。 3. コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。						
進め方	まず教科書のリスニングをし、語彙や熟語定型表現等の学習をする。その後、教科書の音読・読解をし、文法等の説明をする。必要に応じて文章の暗記・ディクテーション・Q&A等を織り交ぜる。						
履修要件	特になし						
	学習項目			(時間数)	学習到達目標		
学習内容	1	オリエンテーション	(2)	年間を通じてコミュニケーションの意欲を育てる。		B2:3	
	2	Hopes and Dreams	(2)	基本文型を理解させる。		B1:3	
	3	Hopes and Dreams	(2)				
	4	We Love Ice Cream	(2)	進行形と完了形を理解させる。		B1:3	
	5	We Love Ice Cream	(2)				
	6	We Love Ice Cream	(2)				
	7	試験範囲のまとめ	(2)				
	8	前期中間試験	(1)				
	9	試験の解説・We Make Friends	(2)				
	10	We Make Friends	(2)	不定詞（名詞的用法）と分詞を理解させる。		B1:3	
	11	We Make Friends	(2)				
	12	Little Wooden Flute	(2)	不定詞（形容詞的用法）と分詞を理解させる。		B1:3	
	13	Little Wooden Flute	(2)				
	14	Little Wooden Flute	(2)				
	15	試験範囲のまとめ	(2)				
	16	前期期末試験	(1)				
	17	試験の解説 A Flying Wheelchair	(2)	不定詞（副詞的用法）と動名詞を理解させる。		B1:3	
	18	A Flying Wheelchair	(2)				
	19	A Flying Wheelchair	(2)				
	20	The Most Beautiful Sight	(2)	比較を理解させる。		B1:3	
	21	The Most Beautiful Sight	(2)				
	22	The Most Beautiful Sight	(2)				
	23	試験範囲のまとめ	(2)				
	24	後期中間試験	(1)				
	25	試験の解説・The Role of Zoos	(2)	関係代名詞を理解させる。		B1:3	
	26	The Role of Zoos	(2)				
	27	The Role of Zoos	(2)				
	28	Color Associations	(2)	if／whether節を理解させる。		B1:3	
	29	Color Associations	(2)				
	30	Color Associations	(2)				
	31	試験範囲のまとめ	(1)				
	32	学年末試験	(1)				
	33	試験問題の解答	(1)				
	34						
	35						
評価方法	定期試験 90％、課題・取組態度など 10％ の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	World Trek English Course I, 浅羽亮一他著, 桐原書店 World Trek English Course I Workbook Standard, 桐原書店編集部, 桐原書店						
備考	特になし						

科目名	英語Ⅲ			担当教員	土屋紀子		
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G01_20180	単位区別	履修単位
学習目標	1. 基礎的なリスニング力や聴解による書き取り力をつける。 2. 基礎的な文法知識を定着させる。 3. 辞書を用いて英文を読むことを通じて、語彙力を高め、読解力を向上させる。						
進め方	毎時間、リスニングのあと音読・デクテーションなどを行う。辞書を用いて、英文読解を行う。 その際、必要な文法事項に関しては、適宜教授する。 Chapter 13, 14 は読解練習として、夏休みの宿題とする。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 ガイダンス Chapter 1	(1)	1. 英語学習への動機づけを高める				
	2 Chapter 1	(1)					
	3 Chapter 2	(1)					
	4 Chapter 2	(1)					
	5 Chapter 3	(1)	1-14、16-29				
	6 Chapter 3	(1)	1) 辞書を用いて基礎的な英文を書いたり聴解 B1:2				
	7 Chapter 4	(1)	による基礎的な書き取りをしたりすること				
	8 Chapter 4	(1)	ができる。				
	9 Chapter 5	(1)					
	10 Chapter 5	(1)					
	11 Chapter 6	(1)	2) 基礎的な文法による英文を理解すること B1:2, B2:2				
	12 Chapter 6	(1)	ができるようになる。				
	13 Review	(1)					
	14 Review	(1)					
	15 前期期末試験	(1)	3) 辞書を用いて基本的な英文を読むことが B2:2				
	16 試験の解答と解説	(1)	ができるようになる。				
	17 Chapter 7	(1)					
	18 Chapter 7	(1)					
	19 Chapter 8	(1)					
	20 Chapter 8	(1)					
	21 Chapter 9	(1)					
	22 Chapter 9	(1)					
	23 Chapter 10	(1)					
	24 Chapter 10	(1)					
	25 Chapter 11	(1)					
	26 Chapter 11	(1)					
	27 Chapter 12	(1)					
	28 Chapter 12	(1)					
	29 Review	(1)					
	30 学年末試験	(1)					
	31 試験問題の解答	(1)					
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	定期試験 90%, 取り組み態度・提出物など 10% の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書: CROSSBEAM 1, エミル出版 プリント教材						
備考	中間試験は実施しない						

[第 2 学年]

科目名	国語			担当教員	森 孝宏		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20010	単位区別	履修単位
学習目標	1 学年までの国語学習の基礎の上に，日本語(母語)による言語活動(読む・書く・話す・聞く)を通して，近代文学に対する理解と論述・発表の力を養い，思考力と表現力を高める。本科目は，学習・教育目標A，Bに関係している。						
進め方	教科書を基に，講義と論述・発表演習を行う。特に，学習目標のうちA1，B1-2の項目に重点をおいて授業を進める。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 小説「山月記」	(8)	近代文学に触れ自我意識の変革を促す。 A1:4				
	2 方丈記	(5)					
	3 長恨歌	(5)					
	4 プレゼンテーション演習	(2)	データを効果的に説明する力を養う。 C1:4, C4:1-4				
	5 前期中間試験	(1)					
	6 答案返却	(1)					
	7 評論「ミロのブーナス」	(4)	多様な視点により柔軟な思考力を養う。 A1:3				
	8 枕草子	(6)					
	9 漢楚軍談	(5)					
	10 近代詩	(3)	物事のコアを把握する方法を身に付ける。 A3:4				
	11 論述	(2)	自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2				
	12 前期期末試験	(1)					
	13 答案返却	(1)					
	14 小説「こころ」	(7)	登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2				
	15 近代俳句	(2)					
	16 定型文書作成	(2)	簡潔に記述する力を養う。 B2:1-2				
	17 大鏡	(4)					
	18 漢文「思想一」	(5)					
	19 ディベート演習	(2)	発言者の意図を正しく理解できる B1:3, B3:1-3				
	20 論述	(2)					
	21 後期中間試験	(1)					
	22 答案返却	(1)					
	23 近代俳句	(2)					
	24 評論「世代間倫理としての環境倫理学」	(5)	日本人の思考を知り，自我意識を考える。 A3:1-2				
	25 源氏物語	(6)					
	26 漢文「思想二」	(5)					
	27 学年末試験	(1)					
	28 答案返却	(1)					
評価方法	年4回の定期試験，および平常点(提出物等)で総合評価する。						
関連科目	特になし。						
教材	教科書：柴田 武 他 編「高等学校現代文」三省堂，木村 博 他 編「古典」筑摩書房						
備考	特になし。						

科目名	倫理社会			担当教員	森 正幸		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20020	単位区別	履修単位
学習目標	1. 青年期の意義、及び課題を心理学的見識から考え、主体性の確立をはかる。 2. 宗教が人生にどのような意味を与えているのかを考える。 3. 先哲の生き方、考え方を手がかりに人生の価値追求への関心を高める。 4. 現代社会が及ぼすさまざまな事象への倫理的あり方に関して考える。						
進め方	教科書の内容と実際に生じている事例を、知識として把握するだけでなく、自らに課せられた問題として、問題事象への倫理的あり方に対しての直感と先哲等の考え方等を参照しながら、自らがどう対処すべきかを、討論形式及びレポート提出等を通じて主体的に述べさせ、生き方の諸課題に自らが参加する進め方をする。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 「倫理」とは	(1)	倫理社会で何を学ぶのかを理解する				
	2 <わたし>とは何か	(2)					
	3 身体と性	(2)	自己への問いかけを通して、自分自身を見つめ				
	4 障害を捉え直す	(2)	自分たちを取り巻く様々な環境の中で、他者と				A1:4
	5 死について	(2)	共に生きる大切さを理解させる				
	6 私たちの生きる社会	(2)					
	7 変貌する家族	(2)	心理学等を通しての人の本質を理解する				
	8 前期中間試験	(1)					
	9 試験返却、情報社会の中で	(2)					
	10 社会との関わりの中で	(2)	現代社会の中で生じている様々な倫理的課題を				A1:2
	11 生命倫理に関して	(3)	理解する				A1:1
	12 命の意味	(1)					
	13 環境倫理を考える	(2)					
	14 伝統の継承と発展	(1)					
	15 共存する社会	(3)					
	16 前期期末試験	(1)					
	17 試験問題の解答と授業評価アンケート	(1)					
	18 ユダヤ教とイエスの宣教	(3)	聖書を通して一神教の考えを理解する				A1:3
	19 キリスト教の展開	(2)	キリスト教の理解を深める				A3:2
	20 インドの思想の展開	(2)	ウパニシャッド哲学を考える				A3:2
	21 仏教の思想	(2)	釈迦の正覚したことを理解する				A3:1
	22 仏教の日本的展開	(2)	親鸞等の考え方を理解する				A3:1
	23 日本の思想	(2)	日本の風土と宗教観を理解する				A3:4
	24 後期中間試験	(1)	宗教の基本を把握する				
	25 ギリシア自然哲学	(2)	哲学の発生と変遷をたどる				A3:2
	26 ソクラテス	(2)	善く生きることの意義を考える				A1:4
	27 プラトン	(2)	本質・真実について考察する				A3:1
	28 アリストテレス	(2)	形相と質料等のとらえ方を学ぶ				A3:1
	29 ヘレニズム哲学	(2)	快楽と禁欲の考え方				A3:4
	30 合理的精神：ベーコンとデカルト	(2)	帰納法と演繹法を理解する				A3:1
	31 近代の人間観	(2)	人間の思考の変化を考える				A3:4
	32 学年末試験	(1)	哲学によるさまざまな考え方を理解する				
	33 試験問題の解答	(1)					
評価方法	定期試験を主たる評価とし、レポートと平常点（授業態度）を加味する。						
関連科目	地理，歴史，政治経済						
教材	教科書：鷲田 清一 監修 「倫理」教育出版						
備考	特になし						

科目名	歴史			担当教員	内田由理子, 直 義和		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20040	単位区別	履修単位
学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質及び人類の課題を広い視野から多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 また、学習教育目標である「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を、授業を通して培っていく。						
進め方	地球的視点から多面的に物事を考える能力：世界の歴史の展開を、広い視野に立って多面的・多角的に捉えさせ、地球世界の課題についても考察する能力を育成する。与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力：多様な資料に親しみコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用するなど、情報や技術を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、観察・見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりする作業的・体験的な学習を取り入れ学習効果を高めるよう工夫する。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容				年間の授業を通して、学習教育目標「粘り強く取り組む姿勢」等の学習態度を培っていく			
	1 文明のはじまり	(2)		農業と牧畜の発生により世界各地に都市文明が生まれていった。また文字は文明を発展させ伝達する役割をはたしていく。このように世界各地には独自の地域世界が形成されていった。人類の残した古代文明と地域世界の展開にはどのような特色がみられるのか、オリエント文明、地中海文明、中国文明を中心に学ぶ			
	2 オリエン特文明の形成	(2)		A1:3			
	3 ギリシア世界とオリエン特	(2)					
	4 ローマ帝国と地中海世界	(2)					
	5 中国文明の形成	(2)					
	6 秦漢帝国の形成と遊牧国家の動向	(3)					
	7 隋唐帝国と東アジア諸民族の活動	(2)					
	8 前期中間試験	(1)					
	9 試験返却, イスラーム国家の成立	(2)					
	10 軍人政権の時代とイスラーム文化	(2)					
	11 ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界	(2)					
	12 西ヨーロッパ世界の成立	(2)					
	13 ヨーロッパ世界の変動	(2)					
	14 契丹・女真と宋の抗争	(2)					
	15 モンゴル帝国の興亡 (2)	(2)					
	16 前期期末試験	(1)					
	17 試験返却, 授業評価アンケート, 明清帝国の繁栄	(2)					
	18 大航海時代とアメリカ・アフリカ (2)	(2)					
	19 ルネサンスと宗教改革	(2)					
	20 近代主権国家の成長	(3)					
	21 産業革命	(2)					
	22 フランス革命とナポレオン	(2)					
	23 世界市場の形成と世界の分割	(2)					
	24 後期中間試験	(1)					
	25 試験返却, 第一次世界大戦とロシア革命	(3)					
	26 アジアの独立運動と革命	(2)					
	27 第二次世界大戦	(2)					
	28 戦後世界の形成と変容	(2)					
	29 21世紀の課題	(2)					
	30 学年末試験	(1)					
31 試験返却	(1)						
評価方法	定期試験, 提出物 (ノート, プリント, レポート類) や学習活動等で総合評価する						
関連科目	日本史, 政治経済, 地理, 国語 (漢文)						
教材	教科書：向山 宏 他著「高等学校改訂版世界史B」第一学習社						
備考	特になし						

科目名	基礎数学Ⅱ			担当教員	篠丸憲三，橋本竜太		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20070	単位区別	履修単位
学習目標	数学の基本的概念のうち「数列」「ベクトル」「行列」について学ぶ。「数列」を学ぶことを通して数学における自然な考察の方法の一端を学ぶ。「ベクトル」に関しては、平面や空間内の図形の性質を調べる道具としてベクトルを利用することを学ぶ。「行列」に関しては、行列の基本的な操作を学ぶ。とくにベクトルや行列は線形代数の基本概念であり、現代の自然科学や工学において線形代数の果たす役割は大きいので、ベクトルや行列の扱いに習熟することを目指す。						
進め方	講義形式で行うが、その内容は教員からの一方的な説明のみで身につくものではない。授業の進度に合わせて受講生各自が予習復習をすることを前提として講義を進める。必要に応じて演習を行ったりレポートを課したりする。						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 数列	(2)	基本的な数列の一般項を計算できる。	D1:2-4			
	2 等差数列	(2)					
	3 等比数列	(2)					
	4 シグマ記号	(2)	総和記号を含む式の計算ができる。	D1:2-4			
	5 数列の和	(2)					
	6 漸化式	(2)					
	7 数学的帰納法	(2)	数学的帰納法を活用できる。	D1:4			
	8 前期中間試験	(1)					
	9 ベクトル	(1)					
	10 ベクトルの演算	(3)	ベクトルの概念を理解し、ベクトルの演算ができる。	D1:2, 4			
	11 ベクトルの成分	(2)					
	12 ベクトルの内積	(2)					
	13 ベクトルの平行と垂直	(2)					
	14 直線のベクトル方程式	(2)	ベクトルの平面図形への応用ができる。	D1:4			
	15 円のベクトル方程式	(2)					
	16 前期期末試験	(1)					
	17 空間座標	(1)					
	18 空間ベクトルの成分	(3)	空間のベクトルの演算ができる。	D1:2			
	19 空間ベクトルの内積	(2)					
	20 直線の方程式	(2)	空間内の直線，平面，球の方程式を扱うことができる。	D1:4			
	21 平面の方程式	(2)					
	22 球の方程式	(2)					
	23 ベクトルの線形独立・線形従属	(2)	ベクトルの線形独立性を判定できる。	D1:2-4			
	24 後期中間試験	(1)					
	25 行列の定義	(1)					
	26 行列の和・差，数との積	(3)	行列の基本的な演算ができる。	D1:2			
	27 行列の積	(3)					
	28 転置行列	(1)					
	29 逆行列	(2)					
	30 連立1次方程式と消去法	(2)	行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。	D1:2, 4			
	31 逆行列と連立1次方程式	(2)					
	32 学年末試験	(1)					
	33 試験問題解答	(1)					
評価方法	定期試験90%，レポートなど10%の比率で総合評価する。						
関連科目	基礎数学Ⅰ，基礎数学Ⅱ（1年），微分積分学，応用解析学						
教材	教科書：高遠節夫他著「新訂 基礎数学」，「新訂 線形代数」大日本図書 問題集：田代嘉宏編「新編 高専の数学2問題集」森北出版 その他，プリントなど。						
備考	特になし						

科目名	微分積分学			担当教員	谷口浩朗，南貴之，須那聡，橋本竜太，森岡茂		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20080	単位区別	履修単位
学習目標	工学や自然科学を学ぶ上で、微分積分の素養はもはや欠かすことはできない。変化を把握する「微分」や変化の蓄積を測る「積分」の概念に十分馴染んでさまざまな分野で有効に活用できるようになるための第一歩として、微分積分法の基礎計算技術の習得および微分積分の基本概念の修得を目指す。						
進め方	$\alpha$ ， $\beta$ ， $\gamma$ の各クラスに分かれて習熟度別に学習する。各クラスでは以下のような基本方針の下で講義が展開される。 $\alpha$ クラスは応用力を養成する。 $\beta$ クラスは小テストや演習を通して、工学のどの分野を学ぶにも困らないレベルの演算能力を身につける。 $\gamma$ クラスは1年次の復習も兼ねながら、基礎学力の定着を図る。						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 関数の極限	(4)	関数の極限の意味を理解し、具体的な計算ができる。 D1:2, 4				
	2 関数の連続	(4)					
	3 微分係数，導関数	(4)	微分の概念を理解し、具体的な微分の計算ができる。 D1:2, 4				
	4 導関数の公式	(4)					
	5 合成関数の導関数	(4)	増減表を作成して関数の変化の様子をとらえ、グラフの概形を描くことができる。 D1:2, 4				
	6 演習	(4)					
	7 三角関数の導関数	(4)	積分の概念を理解し、具体的な積分の計算ができる。 D1:2, 4				
	8 前期中間試験	(2)					
	9 逆三角関数の導関数	(6)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	10 指数関数や対数関数の導関数	(4)					
	11 対数微分法	(2)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	12 演習	(4)					
	13 平均値の定理	(4)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	14 関数の増減と極値	(4)					
	15 関数の最大や最小	(4)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	16 前期期末試験	(2)					
	17 接線と法線，不定形の極限	(6)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	18 高次導関数	(2)					
	19 曲線の凹凸	(4)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	20 媒介変数表示と微分法	(6)					
	21 速度と加速度	(2)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	22 定積分	(4)					
	23 不定積分	(4)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	24 定積分と不定積分の関係	(2)					
	25 定積分の計算	(4)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	26 後期中間試験	(2)					
	27 置換積分法	(4)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	28 部分積分法	(4)					
	29 分数関数や無理関数の積分	(6)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	30 三角関数の積分	(4)					
	31 図形の面積，曲線の長さ	(4)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
	32 学年末試験	(2)					
	33 試験問題解答	(1)	積分を用いて図形の面積や曲線の長さが計算できる。 D1:2, 4				
評価方法	定期試験90%程度，残りをレポート，小テスト，宿題，演習などで総合評価する。 定期試験は $\alpha$ ， $\beta$ ， $\gamma$ のクラスを問わず同一の問題で実施する。						
関連科目	基礎数学Ⅰ，基礎数学Ⅱ（1年，2年），微分積分学（3年），応用解析学						
教材	教科書：高遠節夫他著「新訂 微分積分Ⅰ」大日本図書 問題集：田代嘉宏編「新編 高専の数学2問題集」森北出版 その他，プリントなど。						
備考	特になし						

科目名	物理			担当教員	長谷部 一気		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20100	単位区別	履修単位
学習目標	前期は、波という日常のありふれた現象の理解を通して、物理学の基本的な考え方と自然観を理解する。授業を通して、自然に対する興味と探求の姿勢を育成する。後期は、原子核物理と実験を通し、近代物理学の考え方に触れると共に、自然に積極的に働きかけ、そこから学び取る姿勢を形成する。						
進め方	前期は、水波・音波・光波などの具体例を用い、波の理解を深め、その普遍的な性質を議論する。後期は、原子核物理と実験を通じ物理学の近代的考え方、実験手法を習得するよう進める。						
履修要件	なし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 円運動、単振動	(2)	角速度、周期、回転数(振動数)を理解する。	D1:1-3			
	2 波の表し方	(2)	波源、媒質、波の波長、振幅、速さを理解する。	D1:1-3			
	3 正弦波	(2)	単振動の式から正弦波の方程式を理解する。	D1:1-3			
	4 波のエネルギー	(2)	単振動のエネルギーから波のエネルギーを理解	D1:1-3			
	5 波の干渉と重ね合わせの原理	(2)	波の位相、独立性、干渉から合成波を理解する。	D1:1-3			
	6 定常波	(2)	反射波の位相から定常波を理解する。	D1:1-3			
	7 水の波の伝わり方	(2)	ホイヘンスの原理を理解する	D1:1-3			
	8 前期中間試験	(1)					
	9 音波	(2)	音の3要素、うなりを理解する。	D2:1-3			
	10 発音体の固有振動	(2)	弦・管の共振・共鳴から固有振動を理解する。	D2:1-3			
	11 ドップラー効果	(2)	ドップラー効果の現象を理解する。	D2:1-3			
	12 光の波の進み方	(2)	フェルマーの原理を理解する。	D2:1-3			
	13 光波の性質	(2)	光波の屈折率、臨界角、光路長等を理解する。	D2:1-3			
	14 回折、干渉、偏光	(2)	光波の回折、干渉、偏光の性質を理解する。	D2:1-3			
	15 まとめ	(2)	これまでの学習のまとめと議論を行う。	D5:1-3			
	16 前期末試験	(1)					
	17 試験問題の解答と授業評価アンケート	(2)					
	18 光の粒子性	(2)	光の粒子性、電子の波動性を議論し、物質波の概念について講義	D1:1-3			
	19 電子の波動性	(2)		D1:1-3			
	20 原子の構造	(2)	水素原子のスペクトル、量子化条件を議論する。	D1:1-3			
	21 原子核の構造	(2)	原子核の内部構造、核反応を理解する	D1:1-3			
	22 素粒子	(2)	素粒子の種類、最新の話題について講義する	D1:1-3			
	23 一般物理実験準備	(2)	基本的な機器の測定法を学習する。				
	24 後期中間試験	(1)					
	25 実験	(15)		B1:4 B2:3 B3:1-5 C1:5,6 E6:1-3 E1:1-4 D5:2,3			
	A:密度の測定 B:向心力 C:重力加速度の測定 D:サールの装置 E:天秤による固体の比重測定 F:ジョリのパネはかり G:固体の比熱 H:球面計 など			(左記のテーマの中から3~4人で1グループを形成し2又は3週間毎の輪番で実験を行う。) 実験終了一週間後に報告書を提出。			
評価方法	前期は中間と期末の試験を行い、その結果を重視した評価を行う。後期は、中間試験、実験レポート、課題レポート、授業態度を重視。						
関連科目	数学、化学						
教材	教科書:「高専の物理」第5版、参考書:阿部 龍蔵著 基礎からベスト 物理 実験書:下村 健次 著 基礎物理学実験 増訂版						
備考	参考書の内容のまとめ、問題を解答のレポートの提出を課すことがある。						

科目名	化学			担当教員	笠井健吉		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20110	単位区別	履修単位
学習目標	酸化・還元の見識から電池、電気分解現象を理解させ、その後、反応一般論として化学平衡の法則を教授する。そして1年次既習の酸・塩基反応等々の反応理由をこの化学平衡の法則から理解させる。陽イオン分析実験を通して、既習の化学知識、そして実験技術の実際の体得を促す。有機化学に関しては、有機化合物の体系的把握をさせ、その性質、反応性が主として各種官能基、結合種、分子構造によって定まっていることを理解させる。また高分子については、この有機化合物の体系的把握をさせる中で、同時に紹介、理解させる。						
進め方	検定教科書を批判的に読み進め、講義ノート中心に講義を進める。想像しがたい事物、事例については演示実験、実際に見せる、あるいは学生自身が副教材である化学図解を参照しながら理解する。学生実験は以下の学習内容に示すとおりである。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 酸化・還元の見識 (2) 2 酸化数定義の必要性 (2) 3 酸化剤・還元剤の見識 (2) 4 酸化・還元反応式の導出 (2) 5 酸化・還元滴定実験 (2) 6 前期中間試験 (1) 7 イオン化傾向 (2) 8 電池の形成条件 (2) 9 ダニエル電池 (2) 10 乾電池、蓄電池 (2) 11 電気分解 (2) 12 ファラデー定数・電子の電荷測定実験 (2) 13 前期期末試験 (1) 14 反応速度 (2) 15 化学平衡の法則・ル・シャトリエの原理 (3) 16 溶解度積 (1) 17 化学平衡の法則から反応理由の理解 (2) 18 緩衝溶液 (1) 19 10種陽イオン分析実験 (8) 20 後期中間試験 (1) 21 有機化合物の分類 (2) 22 元素分析・分子式決定法 (2) 23 構造式決定法 (2) 24 炭化水素の3次元構造と性質・反応性 (5) 25 過マンガン酸カリ徹底酸化反応 (2) 26 各種官能基の性質・反応性 (2) 27 芳香族の性質・反応性 (2) 28 高分子の形成とその性質 (2) 29 学年末試験 (1) 30 試験返却 (1)			電子授受による定義付けを理解させる。 D1:3  酸化剤、還元剤の反応式導出、及びそれらより酸化還元反応式が導出できるようにする。 D1:3  電池と酸化還元反応との関係を理解させる。 D1:3  ファラデー定数の実測からイオン、電子の体験的理解をさせる。 D1:3  平衡移動という観点から、種々の反応の反応理由が得られることを理解させる。 D1:3  これまで学習してきたことをでき得る限り、実体験させる。 D1:3  有機化学を炭化水素を元に体系的に理解させる。 D1:3  化学的構造決定法の一として理解させる。 D1:3			
評価方法	中間、及び定期試験結果を重視する。試験問題はノート重視に作成する。陽イオン分析についてはイオン1 個4点、レポート30 枚以上で30 点、後期中間試験は実験に関する問題で30 点、計100 とする。また、授業態度は総合評価の根拠とする。						
関連科目	数学、物理学						
教材	1. 検定教科書：精解化学Ⅰ（数研出版）、化学Ⅱ（数研出版）、2. スクエア最新図説化学（第一学習社）						
備考	注意：学年末試験を除く各試験範囲は学習項目順に従うが、授業進度は試験範囲に先行する。						

科目名	保健・体育			担当教員	横山学		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	08G02_20120	単位区別	履修単位
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを实践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明したうえで、基礎技術の实践を行い、修得できるようにする。団体種目については、個人の基礎技術を修得したうえで、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 年間授業の概要説明	(1)		年間計画を説明し、体育授業の目的・取り組む姿勢を理解する。		F2:1-4	
	2 【ソフトボール】						
	3 捕球・送球の基礎技術	(2)					
	4 バッティングの基礎技術	(5)		ソフトボールの基礎技術（捕球・送球・バッティング）を修得し、ゲームの中で、関係プレーが行なえるようにする。また、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。		F2:1-4	
	5 ルール説明	(1)				F3:1-5	
	6 関係プレーの理論	(2)					
	7 ゲーム	(8)					
	8 実技試験	(1)					
	9 【バレーボール】						
	10 パスの基礎技術	(1)		バレーボールは、1年時にパスの技術を修得しているため、主にスパイクの基礎技術を修得する。また、ルールを把握し、ゲームを運営できるようにすると共に、サーブレシーブのフォーメーションを理解し、ゲームの中で、スパイクが打てるようにする。		F2:1-4	
	11 スパイクの基礎技術	(5)				F3:1-5	
	12 ルール説明	(1)					
	13 フォーメーションの理論	(2)					
	14 ゲーム	(8)					
	15 実技試験	(1)					
	16 【水泳】						
	17 各種目練習	(3)		水に慣れると共に、各競泳種目を理解し、それらの泳ぎの向上を目指す。		F2:1-4	
	18 リレー・メドレーリレー	(2)				F3:1, 2	
	19 タイム測定	(1)					
	20 【スポーツテスト】			毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。		F1:1-4	
	21 記録測定	(4)					
	22 【ハードル】						
	23 基礎技術	(6)		個人の運動能力を向上させると共に、ハードル技術を修得する。		F2:1-4	
	24 記録測定	(1)				F3:1, 2	
	25 【バスケットボール】						
	26 対人練習	(3)		バスケットボールの基礎技術（パス・ドリブル・シュート）を修得する。2人以上のプレイを理解し、ゲームの中で活用できるようにする。また、ルールを把握しゲームを運営できるようにする。		F2:1-4	
	27 ルール説明	(1)				F3:1-5	
	28 フォーメーションの理論	(2)					
	29 ゲーム	(8)					
	30 実技試験	(1)					
	31 【サッカー】			ルールとシステムを理解し、ゲームを運営できるようにする。		F3:1-5	
	32 ルール説明	(2)					
	33 ゲーム	(8)					
	34 【保健】保健は、体育の授業の中に組み込む内容もある。	(10)		いろいろな社会の環境を理解する。		A1:2, 4	
	35						
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						





科目名	書道			担当教官	寺坂文和		
学年	2 年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	08G02_20150	単位区分	履修単位
学習目標	これまでの学習内容と関連づけながら、表現と鑑賞の能力を育てるとともに、古典の臨書と創作を通して、書の美への探求がより充実、深化したものとなるようにする。						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の学習では、実技を通して臨書と創作をする。</li> <li>・多様な書の美への関心と鑑賞の必要性を理解させ、美を追求する姿勢を確立させる。</li> </ul>						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1.書の美を求めて(1)  2.篆書の学習(1) さまざな篆書  3.石鼓文の鑑賞と臨書(2)  4.金文の鑑賞と臨書(2)  5.隸書の学習(1) さまざな隸書 6.隸書の特徴(1) 7.曹全碑の鑑賞と臨書(2)  8.行草書の学習(4) 風信帖の鑑賞と臨書  9.行書の創作(3) 10.楷書の学習(4) 整齊の美と均衡の美 11.仮名の書の学習(2) 種類、特徴 12.漢字仮名交じりの書の学習(1)  13.書体の趣を生かした表現の工夫(2) 14.古名跡を応用しての表現(2) 15.全体構成の工夫(2)			書が求める美とは何かを考える A3:1    特徴を確かめ、その特性を確認する A3:1  それぞれの特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする A3:2 特徴を確かめ、表現へ結びつけるようにする A3:2 特徴を確かめ、その特性を確認する A3:2  漢字は力強く、仮名は優美さを特徴としているので、この両者を調和させて美しく表現できるよう工夫する。各自が意図した表現に近づけるようにする。 B2:1			
評価方法	毎時間、清書作品を提出させ、学習到達度評価を行うとともに、授業態度等も加味した総合評価を行う。						
関連科目							
教材	教科書：今井凌雪著「新編 書道Ⅱ」 教育出版						
備考							

科目名	英語Ⅰ			担当教員	畑 伸興		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20160	単位区別	履修単位
学習目標	英語を学ぶときには、4技能の習得が不可欠である。この授業では、Reading力を身につけることに重点を置く。そのためには、文法力および単語力が必要である。したがって、文法力の強化および語彙の習得に努める。						
進め方	教材は2種類用いる。①「学習目標」に述べたように、Reading力を身につけるために、さまざまな題材の英文を読んでいく。②また、語彙力を身につけるために、単語集を用いる。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 導入および Chapter 1 Music: The Beatles	(4)	①の教材				B1:2
	2 Chapter 2 Global Warming	(4)	英文を読み、単熟語の習得や文法や定形表現の習得に努める。この教材で学ぶ文法事項は次の通りである (番号はChapterの番号)				B2:2
	3 Chapter 3 Communication	(4)	1 五文型 2 進行形 3 助動詞(1)				
	4 Chapter 4 Water	(4)	4 助動詞(2) 5 未来形 6 助動詞				
	5 Chapter 5 Alternative Energy	(4)	7 比較 8 現在完了 9 過去完了				
	6 ②の教材の点検および予備	(1)	10 不定詞(1) 11 不定詞(2) 12 分詞				
	7 ②の教材の点検および予備	(1)	13 動名詞 14 関係代名詞(1) 15 関係代名詞(2)				
	8 前期中間試験	(1)	16 関係副詞(1) 17 関係副詞(2)				
	9 試験返却および Chapter 6 Paper	(4)	18 間接疑問文 19 接続詞(1) 20 接続詞(2)				
	10 Chapter 7 Ecotourism	(4)					
	11 Chapter 8 Smoking	(4)					
	12 Chapter 9 Ecology: Wolves in Yellowstone Park	(4)	②の教材				B1:2
	13 Chapter 10 Discovery: The Sea Route to India	(4)	1年で1500語の単語を習得する。課題として、①例文の筆写および点検、②確認テストを行う。				B2:2
	14 ②の教材の点検および予備	(1)					
	15 前期期末試験	(1)	この教材によると、TOEICに出る単語のうち、8割は高校までで習得する単語である。したがって、その習得に努め、TOEICテストに備える。				
	16 試験返却および Chapter 11 Latitude and Longitude	(4)					
	17 Chapter 12 Overfishing	(4)					
	18 Chapter 13 Time	(4)					
	19 Chapter 14 Vikings	(4)					
	20 Chapter 15 New Zealand	(4)					
	21 ②の教材の点検および予備	(1)					
	22 ②の教材の点検および予備	(1)					
	23 後期中間試験	(1)					
	24 試験返却および Chapter 16 The Industrial Revolution	(4)					
	25 Chapter 17 Language	(4)					
	26 Chapter 18 Religion	(4)					
	27 Chapter 19 Volcanoes: Krakatoa	(4)					
	28 ②の教材の点検および Chapter 20 Rainforests	(4)					
	29 学年末試験	(1)					
	30 試験返却	(1)					
評価方法	年4回の定期試験を80%、課題を20%とし、総合評価を行う。						
関連科目	英語Ⅱ						
教材	① 登美 博之 著 「Polish Up Your English」 成美堂 ② 西谷 恒志 著 「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test」 成美堂						
備考	意欲をもって、受講することを望む。						

科目名	英語Ⅱ			担当教員	土屋紀子・鳥越洋子		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G02_20170	単位区別	履修単位
学習目標	1. 平易な英文を読む力を養うことを目的とする。 2. 基礎的な英文法の知識を修得することを目指す。 3. リスニングの力を養う。						
進め方	まず語彙・英文法等の練習を行う。次に、教科書の音読・読解等を行う。その後リスニングを行い、リピーティング、シャドウイング、ディクテーション等を行う。						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 オリエンテーション	(2)	英語の音読のポイントを理解する。	B2:1			
	2 New Trends of Japanese Tradition	(2)	現在完了，分詞構文を理解する。	B1:2			
	3 New Trends of Japanese Tradition	(2)					
	4 New Trends of Japanese Tradition	(2)					
	5 Precious Heritage of Language	(2)	過去完了・未来完了を理解する。	B1:2			
	6 Precious Heritage of Language	(2)					
	7 試験範囲のまとめ	(2)					
	8 前期中間試験	(1)					
	9 試験の解説	(2)					
	10 Precious Heritage of Language	(2)					
	11 We Must. We Can. We Will.	(2)	It is+形容詞+thatを理解する。	B1:2			
	12 We Must. We Can. We Will.	(2)	S+seem(ed) to doを理解する。	B1:2			
	13 We Must. We Can. We Will.	(2)					
	14 We Must. We Can. We Will.	(2)					
	15 試験範囲のまとめ	(2)					
	16 前期期末試験	(1)					
	17 試験の解答並びに授業評価アンケート	(2)					
	18 More Than Words	(2)	that節・付帯状況を理解する。	B1:2			
	19 More Than Words	(2)					
	20 More Than Words	(2)					
	21 Child Labor	(2)	助動詞+have+過去分詞を理解する。	B1:2			
	22 Child Labor	(2)	前置詞+関係代名詞を理解する。	B1:2			
	23 試験範囲のまとめ	(2)					
	24 後期中間試験	(1)					
	25 試験の解説	(2)					
	26 Child Labor	(2)					
	27 Anime and Manga	(2)	完了形の不定詞を理解する。	B1:2			
	28 Anime and Manga	(2)	代動詞・倒置を理解する。	B1:2			
	29 Anime and Manga	(2)					
	30 Anime and Manga	(2)					
	31 試験範囲のまとめ	(2)					
	32 学年末試験	(1)					
	33 試験問題の解説	(2)					
	34						
	35						
評価方法	定期試験 80%，取組態度，課題など 20% の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	LovEng. English Course II, 影浦攻他著, 啓林館 LovEng. English Course II 予習ノート, 啓林館編集部, 啓林館 HyperListening Elementary, Ichiro Hasegawa, 桐原書店 CDブック 英会話・ぜったい・音読・入門編, 国弘正雄, 講談社インターナショナル						
備考	特になし						

[第 3 学年]

科目名	国語A			担当教員	高木保之		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G03_20011	単位区別	履修単位
学習目標	2 学年までの国語学習の基礎の上に、日本語(母語)による言語活動(読む・書く・話す・聞く)を通して、近代文学に対する理解と論述・発表の力を養い、思考力と表現力を高める。本科目は、学習・教育目標A、Bに関係している。						
進め方	教科書を基に、講義と論述・発表演習を行う。特に、学習目標のうちA1、B1-2の項目に重点をおいて授業を進める。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 随想「想像への畏敬」 (3) 2 小説「山月記」 (6) 3 詩歌「現代の短歌」・「短歌を作ろう」 (5) 4 前期中間試験 (1) 5 答案返却 (1) 6 評論「ミロのヴィーナス」 (4) 7 評論「認識のレッスン」 (2) 8 小説「俘虜記」 (5) 9 詩「小諸なる古城のほとり」 (2) 10 前期期末試験 (1) 11 答案返却 (1) 12 評論「虚構のリアリズム」 (5) 13 評論「文学のふるさと」 (6) 14 小説「舞姫」 (2) 15 後期中間試験 (1) 16 答案返却 (1) 17 小説「舞姫」 (13) 18 学年末試験 (1) 19 答案返却 (1)			近代文学に触れ、自我意識の変革を促す。 A1:4 自己の主張を的確に展開する力を養う。 B2:1-2 多様な視点による柔軟な思考力を養う。 A1:3 登場人物の心情を追体験する。 B1:1-2 物事の核心を把握する方法を身に付ける。 A3:4 日本人の思考を知り、自我意識を考える。 A3:1-2			
評価方法	年4回の定期試験、および平常点(提出物等)で総合評価する。						
関連科目	特になし。						
教材	教科書：井口時男 他 著「新版 現代文」教育出版						
備考	特になし。						

科目名	国語B			担当教員	森 孝宏・富士原伸弘		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G03_20012	単位区別	履修単位
学習目標	日本語(母語)による言語活動(読む・書く・話す・聞く)を通して、それらの能力を高め、日本語で記された文化遺産に触れ、鑑賞できる能力を養う。本科目は、学習・教育目標A、Bに関係している。						
進め方	講義と論述・発表演習を行う。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 課題小論文「コミュニケーション」	(2)	自己の考えを要領よくまとめる。	B2:1-2			
	2 課題小論文「地球環境問題」	(2)	要点を把握して、自分の意見を論じる。	B2:1-2			
	3 課題小論文「環境と情報」	(2)	難読訓、慣用句、時事用語に習熟する。	B1:1-2			
	4 論述「私をアピールする」	(2)					
	5 発表演習	(3)	説明内容を理解させる工夫をする。	B3:1-3			
	6 定型文書作成演習	(2)	定型文書の必須項目を簡潔にまとめる。	B2:2			
	7 前期期末試験	(1)					
	8 答案返却	(1)					
	9 日本神話「伊耶那岐命と伊耶那美命、黄泉の国訪問」	(3)	日本文化の基層をなす神話について学ぶ。	A1:3, A3:4			
	10 日本神話「天照大御神と須佐之男命、天の岩屋戸」	(2)					
	11 日本神話「八岐の大蛇退治、出雲神話」	(2)					
	12 日本神話「大国主神、根国訪問」	(2)					
	13 日本神話「天孫降臨、木花佐久夜毘売」	(2)					
	14 日本神話「海幸彦と山幸彦、海神の宮訪問」	(2)					
	15 学年末試験	(1)					
	16 答案返却	(1)					
評価方法	小テスト、提出物、発表内容、定期試験等を総合評価する。						
関連科目	特になし。						
教材	特になし。						
備考	授業担当者(森、富士原)は、前期と後期で交代する。						

科目名	政治・経済			担当教員	細谷 守, 直 義和		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G03_20030	単位区別	履修単位
学習目標	1. 国のあり方を探求し, 平和と繁栄に貢献しうる人格を陶冶する。 2. 現代における政治・経済・社会の基本的な知識を習得する。 3. 現代社会の諸課題を公正に判断し, 主体的に取り組む能力と態度を身につける。						
進め方	教科書を中心に各学習項目ごとに基本事項を説明・板書し, プリント配布等を通じて理解させる。また, 各学習項目ごとに班別編成をして関心ある事項を決定させ, 班員が協力し合い調査し, その項目をプリント等にまとめ発表する学習時間を設ける。担当教員と学生, 学生と学生が意見を交換し合い, 多様な社会のあり方と公正とは何かを考察させる。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 政治とは何か	(2)	政治と国家, 民主主義思想を説明できる。	A1:4			
	2 人権とは何か	(2)	基本的人権は何かを説明できる。	A1:4			
	3 日本国憲法について	(2)	日本国憲法の基本原理を説明できる。	A1:4			
	4 平和と安全を考える	(2)	憲法 9 条に関して説明できる。	A1:3			
	5 平等と自由を考える	(2)	法の下での平等と自由権を説明できる。	A3:4			
	6 国会・内閣・裁判所について	(2)	日本の政治の仕組みを理解できる。	A1:4			
	7 政党と選挙制度について	(2)	政党政治の仕組みを説明できる。	A1:3			
	8 前期中間試験	(1)					
	9 経済とは何か	(2)	経済の仕組みと変容を理解できる。	A1:3			
	10 経済主体と経済活動について	(2)	3 つの経済主体と企業の役割を説明できる。	A3:1			
	11 市場経済と景気変動について	(2)	市場メカニズムと競争のあり方を説明できる。	A3:1			
	12 財政の仕組みを考える	(2)	財政の役割について説明できる。	A3:1			
	13 金融とは何か	(2)	景気状況と公定歩合の関連を説明できる。	A3:1			
	14 日本の経済について	(2)	日本経済の発展を理解できる。	A3:1			
	15 国際経済の諸課題とは	(2)	国際収支, 資本移動を理解できる。	A3:4			
	16 前期期末試験	(1)					
	17 試験問題の解答と授業評価アンケート	(1)					
	18 少子高齢社会と社会保障について	(2)	高齢化問題を説明できる。	A3:2			
	19 住民生活と地方自治を考える	(2)	住民生活の向上を考察できる。	A1:4			
	20 産業構造の変化と中小企業について	(2)	産業構造の変化を説明できる。	A1:1			
	21 農業と食糧問題を考える	(2)	低い食料自給率の問題点を説明できる。	A3:1			
	22 消費者問題と消費者保護とは	(2)	消費者のあり方を考察できる。	A3:1			
	23 労使関係と労働市場	(2)	今日の労働問題を指摘できる。	A3:2			
	24 後期中間試験	(1)					
	25 地球環境問題を考える	(2)	環境保全の考え方を身につける。	A1:2			
	26 資源・エネルギー問題とは	(2)	原子力に関しての問題点を示せる。	A1:1			
	27 核兵器の廃絶と軍縮について	(2)	核兵器の問題点を指摘できる。	A3:3			
	28 人種・民族問題を考える	(2)	人間の尊厳を考察できる。	A1:4			
	29 南北問題と国際協力について	(2)	発展途上国の自立への関心を持つ。	A1:4			
	30 経済摩擦と外交について	(2)	貿易のあり方を説明できる。	A1:3			
	31 国際社会における日本の役割を考える	(2)	人類全体の利益を考察できる。	A3:4			
	32 学年末試験	(1)					
	33 試験問題の解答と政治・経済面を振り返	(1)					
	34						
	35						
評価方法	定期試験, 作業活動, 課題レポートの提出等で総合評価する。						
関連科目	法学, 倫理・社会, 歴史, 地理, 哲学						
教材	教科書: 坂上順夫 他 著「高等学校 改訂版 新政治・経済」						
備考	特になし						



科目名	応用解析学			担当教員	須那聡, 橋本竜太, 森岡茂		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G03_20090	単位区別	履修単位
学習目標	既習の微分積分や線形代数を自然科学や工学に応用するための基本的な数学的概念の習熟をめざす。前半は微分積分の応用の基本として、定積分による図形の計量、関数のべき級数展開、簡単な微分方程式の求解を学習する。後半では線形代数の新たな基本概念として、行列式、線形写像、固有ベクトルの計算を学習する。						
進め方	各項目ごとに次のように進められる。まずは基本となる理論や新しい用語が紹介される。それらを理解するための例題の解説を踏まえて、各自が類題や演習問題を解く。授業時間外に予習復習として各自で問題を解くことが要求されていると受講生は心得ること。						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 立体の体積 (4)			定積分の応用として各種の変換で表された積分を、公式を用いて求めることができる。 D1:4			
	2 回転面の面積 (2)						
	3 媒介変数表示による図形の計量 (4)						
	4 極座標による図形の計量 (6)						
	5 広義積分 (4)			広義積分の計算ができる。 D1:4			
	6 関数の多項式近似 (1) (4)						
	7 関数の多項式近似 (2) (4)						
	8 前期中間試験 (2)						
	9 数列の極限 (4)			数列や級数の極限の収束性の判定および極限値の計算ができる。 D1:4			
	10 級数 (4)						
	11 べき級数とマクローリン展開 (4)			与えられた関数のマクローリン展開を求めることができる。 D1:4			
	12 オイラーの公式 (2)						
	13 微分方程式の意味と解 (4)			微分方程式の解であることを確かめることができる。 D1:2			
	14 変数分離形 (4)			簡単な微分方程式の一般解を求めることができる。 D1:4			
	15 同次形 (2)						
	16 1階線形微分方程式 (4)						
	17 前期期末試験 (2)						
	18 行列式の定義 (4)						
	19 行列式の性質 (4)			行列式の定義および性質を理解し、行列式の値を求めることができる。 D1:2			
	20 行列式の展開, 行列の積の行列式 (4)						
	21 正則な行列の行列式 (2)						
	22 連立1次方程式と行列式 (4)			クラメルの公式を用いて連立1次方程式を解くことができる。 D1:4			
	23 行列式の図形的意味 (4)						
	24 線形変換の定義と性質 (6)						
	25 後期中間試験 (2)						
	26 合成変換と逆変換 (4)						
	27 回転を表す線形変換, 直交変換 (4)			平面上の線形変換に関する計算ができる。 D1:2			
	28 固有値と固有ベクトル (6)			正方行列の固有値や固有ベクトルを求めることができる。 D1:2			
	29 行列の対角化 (4)			正方行列の対角化を計算できる。 D1:4			
	30 対称行列の対角化 (4)						
	31 対角化の応用 (6)			2次形式の標準形や正方行列のべき乗を求めることができる。 D1:4			
	32 学年末試験 (2)						
	33 試験問題解答 (1)						
評価方法	定期試験90%, レポートなどを10%の比率で総合評価する。						
関連科目	基礎数学Ⅱ (1年, 2年), 微分積分学 (2年, 3年), 応用数学						
教材	教科書: 高遠節夫他著「新訂 微分積分I」, 「新訂 微分積分II」, 「新訂 線形代数」大日本図書 問題集: 田代嘉宏編「新編 高専の数学2 問題集 (第2版)」, 「新編 高専の数学3 問題集 (第2版)」森北出版 その他, プリントなど。						
備考	特になし						

科目名	保健・体育			担当教員	塩田政義		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	08G03_20120	単位区別	履修単位
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを実践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	個人種目については、各種目の基本の理論を説明したうえで、基礎技術の実践を行い、修得できるようにする。団体種目については、個人の基礎技術を修得したうえで、各種目の運動理論を理解する。また、各種目のルール説明を行い、試合を行うことで、それらの種目の運営をできるようにする。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 年間授業の概要説明	(1)	年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえるようにする。	F2:1-4			
	2						
	3 【スポーツテスト】						
	4 記録測定	(3)	毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握し、運動能力の向上を目指す。	F1:1-4			
	5						
	6 【ソフトボール・テニス選択】						
	7 選択授業の説明、種目の決定	(1)	ルールを把握した上で、自分たちで試合を運営できることを目指す。	F2:1-4			
	8 ゲーム	(10)		F3:1-5			
	9 実技試験	(1)					
	10						
	11 【水泳】			F2:1-4			
	12 競泳種目の練習および遠泳	(2)	水に慣れると共に、泳力（持久力）の向上を目指す。	F3:1, 2			
	13						
	14 【ゴルフ・バドミントン・卓球選択】						
	15 選択授業の説明、種目の決定	(1)	基礎技術を修得すると共に、ルールと理論を理解し、ゲームが行なえるようにする。	F2:1-4			
	16 ゲーム（ゴルフは基本スイング）	(10)		F3:1-5			
	17 実技試験	(1)					
	18						
	19 【バレーボール・バスケットボール選択】						
	20 選択授業の説明、種目の決定	(1)	1・2年時に基礎技術を修得しているので、ゲーム中心の内容で、チームの戦術の向上、審判技術の向上を目指す。	F2:1-4			
	21 ゲーム	(13)		F3:1-5			
	22 実技試験	(1)					
	23						
	24 【サッカー・ゴルフ選択】						
	25 選択授業の説明、種目の決定	(1)	サッカーは、1・2年時に基礎技術を修得しているので、ゲーム中心の内容で、チームの戦術の向上、審判技術の向上を目指す。またゴルフでは、バードゴルフなどを取り入れて実践的なことを体験する。	F2:1-4			
	26 ゲーム	(13)		F3:1-5			
	27 実技試験	(1)					
	28						
	29						
	30						
	31						
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし。						

科目名	英語 I			担当教員	鳥越秀知・土屋紀子		
学年	3年		通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G03_20160	単位区別	履修単位
学習目標	色々な文法を理解したり単語を覚えることで英語への知識を深め、英語をより良く理解し、英作文や英文の読解が容易になることを目標とする。						
進め方	3種類のテキストを基に、授業中に多くの問題を解きながら理解していく方法で授業を行う。授業では英語特有の文法構造を理解し、確認のための問題練習を行う。						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 文の成り立ち, 第1章 文の種類	(3)	文・動詞・文型を理解させる。	B1:3			
	2 第2-3章 動詞と文型	(3)					
	3 第4章 動詞と時制	(3)	動詞と時制を理解させる	B1:3			
	4 第5章 動詞と時制	(3)					
	5 第6章 完了形	(3)	完了形を理解させる。	B1:3			
	6 第7章 完了形	(3)					
	7 試験範囲のまとめ	(3)					
	8 前期中間試験	(1)					
	9 試験解説 第8章 助動詞	(3)	助動詞を理解させる。	B1:3			
	10 第9章 助動詞	(3)					
	11 第10章 助動詞	(3)					
	12 第11章 態	(3)	態を理解させる。	B1:3			
	13 第12章 態	(3)					
	14 第13章 不定詞	(3)	不定詞を理解させる。	B1:3			
	15 試験範囲のまとめ	(3)					
	16 前期期末試験	(1)					
	17 試験解説とアンケート・第14章不定詞	(3)					
	18 第15章 不定詞	(3)					
	19 第16章 動名詞	(3)	動名詞を理解させる。	B1:3			
	20 第17章 動名詞	(3)					
	21 第18章 分詞	(3)	分詞を理解させる。	B1:3			
	22 第19章 分詞	(3)					
	23 第20章 比較 試験範囲のまとめ	(3)	比較を理解させる。	B1:3			
	24 後期中間試験	(1)					
	25 試験解説 第21章 比較	(3)					
	26 第22章 関係詞	(4)	関係詞を理解させる。	B1:3			
	27 第23, 24章 関係詞	(4)					
	28 第25章 仮定法	(4)	仮定法を理解させる。	B1:3			
	29 第26章 仮定法	(3)					
	30 試験範囲のまとめ	(3)					
	31 学年末試験	(1)					
	32 試験問題の解答	(1)					
	33						
	34						
	35						
評価方法	定期試験90%, 取り組み態度, レポートなどを10%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	1. "Overview English Grammar in 30 Lessons" 桐原書店 2. "Overview English Grammar Training Book" 桐原書店 3. 上垣晁雄編『即戦ゼミ 大学入試 ベストポイント英語頻出問題740』桐原書店						
備考	特になし						

科目名	英語Ⅱ			担当教員	下林千賀子		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G03_20170	単位区別	履修単位
学習目標	1. 様々な話題の英文を読むことをつうじて英文読解力を向上させる。 2. 単語、熟語、文法知識を定着させる。 3. 簡単な日常的会話の聞き取りに慣れる						
進め方	教科書の英文解釈を行う。リーディングの教科書は、各課ごとに、英文読解を通じて新出単語や熟語の意味並びに発音を学び、内容を学習する。またパラグラフごとの内容理解とスラッシュリーディングの練習をする。また聴解練習も行う。						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 オリエンテーション, Lesson1-1, Listening	(3)	日常的な英語の聞き取りができる。	B1:3			
	2 Lesson 1-2, 1-3	(2)	文の内容を理解し質問に答えられる。	B1:3			
	3 Lesson 1 Structures, Exercises, Listening	(2)	フレーズごとに区切った音読ができる。	B1:3			
	4 Lesson 2-1, 2-2	(2)					
	5 Lesson 2-3 Comprehension Listening	(2)					
	6 Lesson 2 Structures Exercises	(2)					
	7 試験範囲のまとめ Listening	(3)					
	8 前期中間試験	(1)					
	9 試験解説, Lesson3-1, Listening	(2)	単語・熟語・文法を理解できる。	B1:2			
	10 Lesson3-2, Lesson3-3	(2)	パラグラフごとの内容把握ができる。	B1:2			
	11 Lesson3-4, Comprehension, Listening	(2)					
	12 Lesson 3 Structures Exercises Grammar	(2)					
	13 Lesson 5-1, 5-2	(2)					
	14 Lesson 5-3, 5-4	(2)					
	15 Structures, Exercises試験範囲のまとめ	(3)					
	16 前期期末試験	(1)					
	17 試験の解答, Listening, Lesson6-1	(2)	スラッシュリーディングができる。	B1:2			
	18 Lesson 6-2, 6-3	(2)	単語・熟語・文法を理解できる。	B1:2			
	19 Lesson6-4, Compreh., Structures, Exercises	(2)					
	20 Lesson 8-1, 8-2	(2)					
	21 Lesson 8-3, Comprehension, Listening	(2)					
	22 Lesson Structures, Exercises, 試験まとめ	(3)					
	23 後期中間試験	(1)					
	24 試験解説, Listening, Grammar	(2)	英文読解を通じて、読解力を定着させる。	B1:2			
	25 Lesson 11-1, 11-2	(2)	英語を通して異文化の理解を深める。	B1:2			
	26 Lesson 11-3, 11-4	(2)					
	27 Lesson11Comprehension, Structures, Exercises	(2)					
	28 Lesson 12-1, 12-2	(2)					
	29 Lesson 12-2, 試験まとめ	(2)					
	30 学年末試験	(1)					
	31 試験問題の解答	(1)					
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	定期試験80%, 日常の取り組み・宿題・提出物を20%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	Sunshine Readings 九頭見一士他著 開隆堂 HyperListening Plus Elementary 桐原書店編集部編 桐原書店						
備考	特になし						

[第 4 学年]

科目名	保健・体育			担当教員	有馬弘智・横山学		
学年	4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	1
分野	一般	授業形式	実技	科目番号	08G04_20120	単位区別	履修単位
学習目標	様々なスポーツの運動理論を理解し、基礎技術を修得する。その種目のルールを把握し、それらのスポーツを实践できるようにする。また、スポーツテスト等で、個人の体力・運動能力を把握し、それらの維持と向上をはかる。						
進め方	それぞれの種目の基礎技術は、下級生の時に修得しているので、ゲーム中心の内容で授業を行う。その中で各種目の運動理論をより深く理解し、個人の基礎技術の向上、審判技術のレベル向上を目指す。また、選択制度を取り入れ、自分の興味のある種目を選択させ、社会体育への継続を目指す。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 年間授業の概要説明	(1)	年間計画を説明し、効率的にかつ安全に授業が行なえるようにする。 F2:1-4				
	2						
	3 【スポーツテスト】						
	4 記録測定	(3)	毎年測定することにより、自分自身の運動能力を把握 F1:1-4				
	5		し、運動能力の向上を目指す。				
	6 【ゴルフ・ソフトボール選択】						
	7 選択授業の説明、種目の決定	(1)					
	8 ゲーム	(9)					
	9 実技試験	(1)	選択制度を取り入れることで、自分の興味のある種目 F2:1-4				
	10		を選択し、ルールと理論をより深く理解する。また、 F3:1-5				
	11 【バスケットボール・テニス選択】		正しいゲームの運営を行い、個人の技術、審判技術の				
	12 選択授業の説明、種目の決定	(1)	向上を目指す。				
	13 ゲーム	(6)					
	14 実技試験	(1)					
	15						
	16 【サッカー・ソフトバレーボール選択】						
	17 ゲーム	(6)					
	18 実技試験	(1)					
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27						
	28						
	29						
	30						
	31						
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	各種目の実技試験と平常点（出席率、授業態度）で総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	教科書「アクティブスポーツ」（総合版） 大修館書店						
備考	特になし						



科目名	数学概論 I			担当教員	南 貴之		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G04_20240	単位区別	履修単位
学習目標	一変数および多変数の微分積分学の復習を通じて学力の向上を図り，編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入するのに十分な実力を養成する。						
進め方	問題を解く練習を通じて既習内容の復習・補完をし，数学の学力の向上と定着を図ると共に本校への編入学生・大学へ編入を希望する学生の指導に資する。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 数列の収束・発散 (その1) (1)			数列や級数の収束・発散の判定や極限の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4			
	2 数列の収束・発散 (その2) (1)						
	3 関数の極限 (その1) (1)			関数の極限の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4			
	4 関数の極限 (その2) (1)						
	5 微分法の応用 (その1) (1)			一変数関数の微分が計算でき，それらの応用ができる。 D1:4			
	6 微分法の応用 (その2) (1)						
	7 微分法の応用 (その3) (1)			一変数の積分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4			
	8 前期中間試験 (2)						
	9 不定積分の計算 (その1) (1)						
	10 不定積分の計算 (その2) (1)						
	11 定積分の計算 (その1) (1)						
	12 定積分の計算 (その2) (1)						
	13 定積分の計算 (その3) (1)						
	14 広義積分 (その1) (1)						
	15 広義積分 (その2) (1)						
	16 広義積分 (その3) (1)						
	17 前期期末試験 (2)			多変数関数の微分が計算でき，それらの応用ができる。 D1:4			
	18 積分の応用 (その1) (1)						
	19 積分の応用 (その2) (1)						
	20 積分の応用 (その3) (1)						
	21 積分の応用 (その4) (1)						
	22 偏微分の計算 (その1) (1)						
	23 偏微分の計算 (その2) (1)						
	24 偏微分の計算 (その3) (1)						
	25 偏微分の計算 (その4) (1)						
	26 後期中間試験 (2)						
	27 偏微分の応用 (その1) (1)						
	28 偏微分の応用 (その2) (1)						
	29 偏微分の応用 (その3) (1)						
	30 重積分の計算 (その1) (1)						
	31 重積分の計算 (その2) (1)						
	32 重積分の計算 (その3) (1)						
	33 重積分の応用 (1)						
	34 学年末試験 (2)						
	35 答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験 90%，レポート等 10% の比率で総合的に評価する。						
関連科目	微分積分学（2 学年），微分積分学（3 学年）						
教材	プリントによる問題集，1 年から 3 年までに使用した教科書および問題集						
備考	特になし						



科目名	英語Ⅳ			担当教員	土屋 紀子、畑 伸興		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G04_20270	単位区別	履修単位
学習目標	英語を学ぶときには、4技能の習得が不可欠である。この授業では、Reading力を身につけることに重点を置く。科学を題材とした英文と英字新聞の読み方を習得する。そのためには、文法力および単語力が必要である。したがって、文法力の強化および語彙の習得に努める。						
進め方	教材は2種類用いる。①科学を題材にした英文を読んでいく。②英字新聞の読み方を習得する。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 導入および ①Chapter 1 Newton's Universe	(4)	①の教材	B1:2			
	2 ①Chapter 2 Relativity①	(4)	科学英文を読み、単熟語の習得や既習の文法	B2:2			
	3 ①Chapter 3 Relativity②	(4)	や定形表現の習得に努める。				
	4 ②Unit 1		既習の文法事項は次の通りである。				
	5 ②Unit 2	(1)	1 五文型 2 進行形 3 助動詞 4 助動詞				
	6 ②Unit 3		5 未来形 6 助動詞 7 比較 8 現在完了 9 過去完了				
	7 ②Unit 4-5	(1)	10 不定詞 11 分詞 12 動名詞 13 関係代名詞				
	8 前期中間試験	(1)	14 関係副詞 15 間接疑問文 16 など				
	9 試験返却および ①Chapter 4 Curved Space①	(4)					
	10 ①Chapter 5 Curved Space②	(4)	②の教材	B1:2			
	11 ②Unit 6-7	(1)	英字新聞の読み方を習得する。見出しとリー	B2:2			
	12 ②Unit 8-9	(1)	ドの関係を中心に学習する。				
	13 ②Unit 10	(1)	それぞれのUnitの見出しは次の通りである。				
	14 課題の点検および予備	(3)	1 Climate change affecting growth of fish				
	15 前期期末試験	(1)	2 Rise in crocodile attacks may be linked to logging				
	16 試験返却および ①Chapter 6 The Expanding Universe①	(4)	3 Can a TV quiz be addictive? Some Britons say yes				
	17 ①Chapter 7 The Expanding Universe②	(4)	4 Calorie-hungry Japan lines up for taste of America				
	18 ①Chapter 8 The Expanding Universe③	(4)	5 USDA proposes requiring school menu compliance				
	19 ②Unit 11		6 Fusion Muslim chic hits Europe's streets				
	20 ②Unit 12	(1)	7 Japanese mothers turn lunch boxes into high art				
	21 ②Unit 13		8 Study: Lack of Vitamin D can weaken elderly				
	22 ②Unit 14-15	(1)	9 Languages to be compulsory for U.K. primary pupils				
	23 後期中間試験	(1)	10 Affluent lifestyle putting Asians at greater risk for diabetes				
	24 試験返却および ①Chapter 9 The Big Bang, Black Holes, and the Evolution of the Universe	(4)	11 Commercial complex set for Tokyo's Roppongi area				
	25 ①Chapter 10 The Big Bang, Black Holes, and the Evolution of the Universe	(4)	12 Starbucks forges ahead despite many missteps				
	26 ①Chapter 11 The Big Bang, Black Holes, and the Evolution of the Universe	(3)	13 Decades after Vietnam War, a cultural divide persists				
	27 ②Unit 16-18	(1)	14 Russia promotes language as symbols of resurgence				
	28 ②Unit 19-20	(1)	15 EU fines brewers for fixing prices				
	29 学年末試験	(1)	16 New York feasts on pricey Kobe beef food fight				
	30 試験返却	(1)	17 Merkel helps German moms shed 'raven mother' tag				
	31		18 Ravers, traditionalists vie for soul of tango				
	32		19 Clinton raises \$26 million in first quarter				
	33		20 Thorny Mexican food staple gains fame as folk cure				
	34						
	35						
評価方法	年4回の定期試験を80%、課題を20%とし、総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	① Stephan Hawking 著 「A Briefer History of Time」 松柏社 ② 大澤 岳彦 著 「Newpaper English」 南雲堂						
備考	意欲をもって、受講することを望む。						

科目名	独語 I			担当教員	小阪清行		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G04_20190	単位区別	履修単位
学習目標	語学の学習を通して、広い視野の獲得を目指す。特にE U の存在が大きく取り上げられる今日、ヨーロッパを、その文化の根底から理解することに力を注ぎたい。そのため、文学・思想・宗教・歴史などにも触れる。						
進め方	文法説明 → 辞書を使つての訳読 → ドリル → 会話練習 → 会話テスト（時々）						
履修要件	特になし						
	学習項目			(時間数)	学習到達目標		
学習内容	1	オリエンテーション	(2)	発音に慣れる			
	2	ドイツ語ってどんな言葉？	(2)				B1:1
	3	難しくないよ、ドイツ語の発音	(2)				B1:1
	4	でも、甘くはないよ文法は	(2)				B1:1
	5	やってみよう、ドイツ語で自己紹介	(2)				B1:1
	6	覚えよう、動詞の変化、会話テスト	(2)	動詞の人称変化の理解			B1:3, B2:2
	7	へー、ドイツ語って英語とこう違うんだ	(2)				B1:1
	8	前期中間試験	(1)				
	9	机は男性、黒板は女性、少女は中性…!?	(2)				B1:1
	10	格変化って、何？	(2)	名詞の格変化の理解			B1:1
	11	アイラブユーをドイツ語で	(2)	人称代名詞の理解			B1:1
	12	動詞が二つにチョン切れる	(2)	分離動詞の理解			B1:1
	13	動詞がひっくり返ったり、飛んでったり	(2)	定動詞後置・倒置の理解			B1:1
	14	会話テスト	(2)				B1:3, B2:2
	15	模擬テスト	(2)				B1:1
	16	前期期末試験	(1)				
	17	試験解答とアンケート・忘れたドイツ語	(2)				B1:1
	18	前期よりちょっと高度の自己紹介	(2)				B1:1
	19	文法のブラッシュ・アップ	(2)				B1:1
	20	「あなたはドイツ語を喋れますか？」	(2)	助動詞の理解			B1:1
	21	ドイツのビデオを観よう	(4)				B1:1
	22	模擬テスト、会話テスト	(2)				B1:3, B2:2
	23	後期中間試験	(1)				
	24	『聖しこの夜』をドイツ語で	(2)				B1:1
	25	年の瀬はもちろん『第九』	(2)				B1:1
	26	「私は昨日コンサートにへいきました。」	(2)	過去形の理解			B1:1
	27	これ(↑)をドイツ語では現在完了で	(4)	現在完了形の理解			B1:1
	28	会話テスト	(2)				B1:3, B2:2
	29	模擬テスト	(2)				B1:1
	30	学年末試験	(1)				
	31	試験問題の解答	(1)				
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	定期試験を70％、平常点（会話テストなど）を30％の比率で総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	教科書：小阪清行他著 「改訂・ドイツ文法の森」						
備考	5月以降毎回辞書を持参すること						

科目名	中国語 I			担当教員	張 文		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G04_20400	単位区別	履修単位
学習目標	中国語の発音，日常用語，基礎的な文法を学習し，簡単な会話と文章を書ける能力を養成する。また中国語の学習を通じて中国社会のことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに，学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に，繰り返し練習を行い，現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。前期は，中国語の入門（発音・語彙，日常用語，簡単な文法）を行い，後期は実用的文法（簡単な会話，簡単な文章）を行う。						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1	中国語の入門，発音	(2)	1～7			
	2	発音（母音，子音，アクセント）	(2)	中国語の特徴，学習法を習得し，発音を			
	3	発音のまとめ，代名詞	(2)	身につける。 B1:1, B2:1			
	4	動詞述語文	(2)				
	5	形容詞述語文	(2)				
	6	名詞述語文	(2)				
	7	場所代名詞，方位詞，数量詞	(2)				
	8	前期中間試験	(1)				
	9	疑問文	(2)				
	10	形容詞を修飾する副詞	(2)	9～15			
	11	疑問詞，時刻	(2)	あいさつなど定型的な日常会話の語彙・			
	12	日付，曜日	(2)	文法を理解することができ会話をおこ B1:2, B2:2			
	13	完了を表す助詞(1)	(2)	なえる。			
	14	完了を表す助詞(2)	(2)				
	15	前期の学習をまとめ	(2)				
	16	前期期末試験	(1)				
	17	試験の解答並びに授業評価アンケート	(2)	17～23			
	18	反復疑問文	(2)	日常的な会話にでてくる単語や文法を			
	19	前置詞	(2)	理解し会話ができる。 B1:2, B2:2			
	20	時間補語	(2)				
	21	経験を表す助詞	(2)				
	22	継続を表す助詞	(2)				
	23	動詞の持続態	(2)				
	24	後期中間試験	(1)				
	25	選択疑問文	(2)	25～31			
	26	回数補語，程度補語	(2)	状況に応じた簡単な会話ができる。 B1:2, B2:2			
	27	比較表現	(2)				
	28	連動式文	(2)				
	29	能願動詞(1)	(2)				
	30	能願動詞(2)	(2)				
	31	後期の学習をまとめ	(2)				
	32	学年末試験	(1)				
	33	試験問題の解答	(1)				
	34						
	35						
評価方法	定期試験90%，取組態度・課題などを10%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書：山下輝彦著 「中国語の入門」（CD付新版） 白水社						
備考	特になし						

科目名	哲学			担当教員	森 正幸		
学年	4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G04_20300	単位区別	履修単位
学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊、人口爆発と貧困、グローバル経済と諸紛争、テクノロジーの発達に起因する負の影響など、諸問題が山積している。このような諸問題が即、日常生活レベルと通底していることが極めて現代の特徴であり、今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められている時代は他にない。豊富な思考資料の下、豊かな試行錯誤を心掛けたい。						
進め方	個体発生は系統発生を要約して繰り返す（ヘッケル）と言われるように、個人の精神史と世界のそれとは局面はどうであれ関連している。哲学概説を兼ねて哲学する意味を考えたい。世界内存在としての自己と諸問題、そして哲学的知の拡がりに思いを馳せる。 西洋哲学史を歴史的に鳥瞰しつつ哲学と時代を考察する。（時代を生きること 哲学と人生）						
履修要件							
	学習項目（時間数）			学習到達目標			
学習内容	1 個人史としての哲学（哲学概説）（4）			自己を形成している精神内容を見つめる眼と他者理解の態度を涵養する A1:3			
	2 現代世界の諸問題と哲学（6）			世界の諸問題と世界内存在としての自己 A1:4			
	3 哲学知のさまざまな在り方（4）			さまざまな知的在り方があること理解する A3:4			
	4 西洋哲学史「ソフィーの世界」を主な題材として（10）			歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し、時 代の役割を果たした事を知る A1:3			
	神話 自然 哲学 運命 ソクラテス プラトン アリストテレス 神学 5 哲学と人生（ストア学派）（5）			境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする A1:4			
	6 前期期末試験（1）						
	7 試験返却, 哲学と科学的思考（10）			哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産 出した西洋哲学の特性について考える A1:3			
	デカルト ベーコン パスカル スピノザ ライプニッツ カント ヘーゲル など						
	8 現象学と人間諸科学（4）			哲学の一形態である現象学が何故、成立したの か, 考察する A1:3			
	9 後記中間試験（1）						
	10 試験返却, 総合知、世界観としての哲学（6）			混迷の度を深める現代世界、総合知・世界観と としての哲学の重要性を知る A1:3, A1:4			
	11 Philosophyと哲学（東洋的形而上学）（8）			世界の偉大な知的伝統の十字路である日本とは 何か… A1:3, A1:4			
	12 学年末試験（1）						
13 試験返却（1）							
評価方法	定期試験を主たる評価とし、小論文と平常点（出席率、授業態度）を加味する。 意見発表など積極的に授業参加した者に対しては評価をする。						
関連科目	なし						
教材	教科書：なし 参考書：ヨーステン・ゴルデン著「ソフィーの世界」NHK出版 木田 元 著「反哲学史」講談社学術文庫 木田 元 著「現代哲学」同上						
備考	テーマによっては映像を使用することもある。						

[第 5 学年]



科目名	自然特論			担当教員	森岡茂		
学年	5年	学期	後期	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G05_20220	単位区別	履修単位
学習目標	現代社会を支える主要発電システムの一つである原子力発電について、その原理・仕組みを学ぶことを通じて技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し広い視野を持って技術の発展に対応できるようにする。						
進め方	原子核工学基礎，原子炉物理，放射線防護，実用発電用原子炉の仕組み等について学ぶ。（電理工学概論との重複を避けつつ，やさしい講義を進める。）						
履修要件	特になし						
	学習項目			(時間数)	学習到達目標		
学習内容	1 原子力の基礎（その１）			(2)	放射線とは何かを理解する。 D1:1		
	2 原子力の基礎（その２）			(2)	放射線と物質の相互作用について理解する。 D1:1		
	3 原子力の基礎（その３）			(2)	放射線と物質の相互作用について理解する。 D1:1		
	4 原子炉の原理，安全性（その１）			(2)	原子核と中性子の相互作用について理解する。 D1:1		
	5 原子炉の原理，安全性（その２）			(2)	原子炉の基本構成について理解する。 D1:1		
	6 放射線防護（その１）			(2)	放射線防護の基本原則について理解する。 D1:1		
	7 放射線防護（その２）			(2)	放射線防護の基本原則について理解する。 D1:1		
	8 演習			(2)	放射線防護の基本原則について理解する。 D1:1		
	9 後期中間試験			(1)	放射線防護の基本原則について理解する。 D1:1		
	10 原子力発電の仕組み（その１）			(2)	原子力発電システムを理解する。 D1:1		
	11 原子力発電の仕組み（その２）			(2)	原子力発電システムを理解する。 D1:1		
	12 原子力発電の仕組み（その３）			(2)	原子力発電システムを理解する。 D1:1		
	13 原子燃料			(2)	原子燃料の構造，ウラン資源の賦存状況を理解する。 A1:2		
	14 原子力事故			(2)	事故経験について学習し，将来の技術者としての生活に役立てる。 A1:1, A2:1		
	15 いろいろな原子炉			(2)	事故経験について学習し，将来の技術者としての生活に役立てる。 A1:1, A2:1		
	16 核融合			(2)	核融合について理解する。 A2:2		
	17 学年末試験			(1)	核融合について理解する。 A2:2		
	18 試験問題解答			(1)	核融合について理解する。 A2:2		
評価方法	定期試験 80%，学習状況・レポートなど 20% の比率で総合評価する。						
関連科目	電理工学概論						
教材	参考書：藤家洋一 監修 岡多賀彦 編・著 「原子力演習」 E R C 出版 他 参考書：藤家洋一 著 「原子力」 E R C 出版						
備考	特になし						

科目名	数学概論Ⅲ			担当教員	南 貴之		
学年	5年	学期	前期	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G05_20260	単位区別	履修単位
学習目標	一変数および多変数の微分積分学，線形代数学の復習を通じて学力の向上を図り，編入学生の勉学を助けると共に大学へ編入学するのに十分な実力を養成する。						
進め方	問題を解く練習を通じて既習内容の復習・補完をし，数学の学力の向上と定着を図ると共に本校への編入学生・大学へ編入学を希望する学生の指導に資する。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 行列・行列式の計算とその応用 (2)			行列・行列式の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4			
	2 行列・行列式の応用 (2)						
	3 固有値・固有ベクトル (1) (2)			固有値・固有ベクトルの計算およびそれらの応用ができる。 D1:4			
	4 固有値・固有ベクトル (2) (2)						
	5 固有値・固有ベクトルの応用 (2)						
	6 ベクトル・ベクトル空間と一次変換 (1) (2)			ベクトル空間の定義を理解し、その応用ができる。 D1:4			
	7 ベクトル・ベクトル空間と一次変換 (2) (2)						
	8 前期中間試験 (2)						
	9 一階微分方程式 (2)			与えられた微分方程式の解を求めることができる。 D1:4			
	10 高階微分方程式 (2)						
	11 偏微分の計算 (2)			偏微分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4			
	12 偏微分の応用 (2)						
	13 重積分 (2)			重積分の計算およびそれらの応用ができる。 D1:4			
	14 重積分の応用 (その1) (2)						
	15 重積分の応用 (その2) (2)						
	16 前期期末試験 (2)						
	17 答案返却・解答 (1)						
評価方法	定期試験90%，レポート等10%の比率で総合的に評価する。						
関連科目	基礎数学Ⅱ，微分積分学，応用解析学						
教材	プリントによる問題集，今までに使用した教科書						
備考	時間数が少ないので，できる限り独力で多くの問題を解き，添削を受けたり質問をしたりすることを期待する。						

科目名	英語Ⅴ			担当教員	森 和憲		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G05_20280	単位区別	履修単位
学習目標	1. TOEICのリーディング教材を解くことで英語の文章の読解力を養う 2. テキストのシャドウイング活動を通して発音とリスニング力を鍛える 3. マルチメディア教材や演習問題を使って語彙や文法を学習する						
進め方	1. TOEICのリーディング教材を解く 2. テキストのシャドウイングする 3. マルチメディアを使って語彙や文法を学習する 4. 文法の演習問題を課題として与える						
履修要件	特になし						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 国際語としての英語について	(1)	英語の重要性について理解する	B1:1			
	2 トピックセンテンスの理解	(1)	トピックセンテンスをつかめるようにする	B1:2			
	3 トピックセンテンスの理解	(1)		B1:3			
	4 まとめ	(1)		B2:1			
	5 スキャニングの技法	(1)	設問文を先に読んで、必要情報を探す	B2:2			
	6 スキャニングの技法	(1)		B2:3			
	7 まとめ	(1)					
	8 前期中間試験	(1)					
	9 パラフレーズ・リーディングの方法	(1)	パラフレーズ攻略により完答する方法を学ぶ	B1:1			
	10 パラフレーズ・リーディングの方法	(1)		B1:2			
	11 まとめ	(1)		B1:3			
	12 ラピッドリーディングの技法	(1)	英語の語順で読み、素早く大意をつかめるようにする	B2:1			
	13 ラピッドリーディングの技法	(1)		B2:2			
	14 まとめ	(1)		B2:3			
	15 前期期末試験	(1)					
	16 テスト返却、ビジネス英語の読解	(1)	ビジネス英語について学ぶ	B1:1			
	17 ビジネス英語の読解	(1)		B1:2			
	18 まとめ	(1)		B1:3			
	19 電子メール文の読解	(1)	電子メールや手紙の文章を理解できるようにする	B2:1			
	20 電子メール文の読解	(1)		B2:2			
	21 広告文の読解	(1)	広告文の文章を理解できるようにする	B2:3			
	22 広告文の読解	(1)					
	23 後期中間試験	(1)					
	24 案内・説明書の文章の読解	(1)		B1:1			
	25 案内・説明書の文章の読解	(1)	告知・案内・説明書の文章を理解できるようにする	B1:2			
	26 記事・レポート文章の理解	(1)	記事・レポートの文章を理解できるようにする	B1:3			
	27 記事・レポート文章の理解	(1)		B2:1			
	28 グラフやアンケート調査の文章	(1)	グラフやアンケートの文章を理解できるようにする	B2:2			
	29 グラフやアンケート調査の文章	(1)		B2:3			
	30 学年末試験	(1)					
	31 テスト返却	(1)					
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	中間・期末試験を80%、『COCET3300』の進捗状況や提出物等を20%の比率で総合評価する。						
関連科目	英語Ⅵ						
教材	教科書：成重 寿 新TOEIC TESTリーディング問題集（単行本）（Jリサーチ出版） 演習問題集：瓜生 豊・篠田重晃 Next Stage 英文法・語法問題 [New Edition]（桐原書店） 英単語帳：亀山太一監修『COCET3300』（成美堂）						
備考	特になし						

科目名	英語VI			担当教員	畑 伸興		
学年	5年	学期	後期	履修条件	選択	単位数	1
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G05_20281	単位区別	履修単位
学習目標	英語を学ぶときには、4技能の習得が不可欠である。この授業では、文法力の強化および語彙の習得に努める。また和文英訳の強化に努める。						
進め方	教材は2種類用いる。①既習の文法項目を強化する。②和文英訳の強化を行う。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 導入および ①Unit 1 Fashion	(1)	①の教材	B1:2			
	2 ①Unit 2 Companies	(1)	既習の文法項目の強化に努める。	B2:2			
	3 ①Unit 3 Business Trips	(1)	この教材で学ぶ文法事項は次の通りである（番号はUnitrの番号）				
	4 ①Unit 4 Transportation and Commuting	(1)					
	5 ①Unit 5 Marketing, Sales and Products	(1)	1 名詞 2 代名詞 3 自動詞・他動詞 4 助動詞				
	6 ①Unit 6 Offices and Supplies	(1)	5 不定詞・動名詞 6 前置詞(1) 7 前置詞(2) 8 形容詞・副詞				
	7 ①Unit 7 Meetings and Presentations	(1)	9 比較 10 接続詞(1) 11 時制(1) 12 時制(2)				
	8 ①Unit 8 Art	(1)	13 時制(3) 14 時制(4) 15 受動態 16 接続詞(2)				
	9 ①Unit 9 Restaurants and Food	(1)	17 否定文 18 疑問文など 19 関係詞 20 後置修飾				
	10 ①Unit 10 Housing	(1)	21 仮定法 22 語法				
	11 ①Unit 11 The Environment and Recycling	(1)					
	12 ②の教材の点検および予備	(1)	②の教材	B1:2			
	13 ②の教材の点検および予備	(1)	和文英訳能力を養う。	B2:2			
	14 ②の教材の点検および予備	(1)					
	15 前期期末試験	(1)					
	16 試験返却および Unit 12 Business Profile	(1)					
	17 Unit 13 Schedules	(1)					
	18 Unit 14 Computers and the Internet	(1)					
	19 Unit 15 Industry and Manufacturing	(1)					
	20 Unit 16 Making Arrangements	(1)					
	21 Unit 17 Business Culture	(1)					
	22 Unit 18 Recruitment	(1)					
	23 Unit 19 Entertaining and Socializing	(1)					
	24 Unit 20 Education	(1)					
	25 Unit 21 Banking	(1)					
	26 Unit 22 Health	(1)					
	27 ②の教材の点検および予備	(1)					
	28 ②の教材の点検および予備	(1)					
	29 学年末試験	(1)					
	30 試験返却	(1)					
	31						
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	年2回の定期試験を80%，課題を20%とし，総合評価を行う。						
関連科目	特になし						
教材	① 本多 吉彦 著 「English Grip」 金星堂 ② 木塚 春夫 著 「Common Expression in English Writing 」 鶴見書店						
備考	意欲をもって，受講することを望む。						

科目名	独語 II			担当教員	小阪清行		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G05_20290	単位区別	履修単位
学習目標	語学の学習を通して、広い視野の獲得を目指す。特にEUの存在が大きく取り上げられる今日、ヨーロッパを、その文化の根底から理解することに力を注ぎたい。そのため、文学・宗教・歴史などにも触れる。						
進め方	全般的な文法説明 → 辞書を利用した訳読 → ドリル → 会話テスト（時々）						
履修要件	独語Iを履修していること						
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1	日本とドイツ、シーボルトA	(2)	受け身について理解する	B1:1		
	2	日本とドイツ、シーボルトB	(2)		B1:1		
	3	第九の初演、ドイツ兵俘虜A	(2)		B1:1		
	4	第九の初演、ドイツ兵俘虜B	(2)		B1:1		
	5	会話テスト	(2)		B1:3, B2:2		
	6	ゲーテの生涯A	(2)	過去形と現在完了形を理解する	B1:1		
	7	ゲーテの生涯B	(2)		B1:1		
	8	前期中間試験	(1)				
	9	ユダヤ人はなぜ迫害されたのか？A	(2)		B1:1		
	10	ユダヤ人はなぜ迫害されたのか？B	(2)		B1:1		
	11	ユダヤ人はなぜ迫害されたのか？C	(2)		B1:1		
	12	会話テスト	(2)		B1:3, B2:2		
	13	ヒトラーと抵抗運動についてA	(2)	関係代名詞の用法を把握する	B1:1		
	14	ヒトラーと抵抗運動についてB	(2)		B1:1		
	15	ヒトラーと抵抗運動についてC	(2)		B1:1		
	16	前期期末試験	(1)				
	17	試験の解答とアンケート・会話テスト	(2)		B1:3, B2:2		
	18	EUの言語はどうなるのか？A	(2)		B1:1		
	19	EUの言語はどうなるのか？B	(2)		B1:1		
	20	EUの言語はどうなるのか？C	(2)		B1:1		
	21	アーミッシュって何？A	(2)		B1:1		
	22	アーミッシュって何？B	(2)		B1:1		
	23	後期中間試験	(1)				
	24	アーミッシュって何？C	(2)	接続法を理解する	B1:1		
	25	会話テスト	(2)		B1:3, B2:2		
	26	アインシュタインの生涯A	(2)		B1:1		
	27	アインシュタインの生涯B	(2)		B1:1		
	28	アインシュタインの生涯C	(2)		B1:1		
	29	アインシュタインの生涯D	(2)		B1:1		
	30	学年末試験	(1)				
	31	試験問題の解答	(1)				
	32						
	33						
	34						
	35						
評価方法	定期試験を70％、平常点（会話テストなど）を30％の比率で総合評価する。						
関連科目	特になし						
教材	教科書：小阪清行他著 「改訂・ドイツ文法の森」（4年生のとき使用したもの） プリントを多く使用						
備考	毎回辞書を持参すること						

科目名	中国語II			担当教員	前崎麗		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G05_20410	単位区別	履修単位
学習目標	中国語Iで学習した中国語の発音，日常用語，基礎的な文法と簡単な会話と文章構築能力を基に，中国語の能力をさらに向上させる。また中国語の学習を通じて中国社会のことを紹介する。						
進め方	各学習項目ごとに，学習内容の解説とその関連事項を講義する。その講義を基に，繰り返し練習を行い，現実に使われている中国語に慣れる。語彙力並びに文章構築力を高めるための活動をする。						
履修要件	特になし						
	学習項目			(時間数)	学習到達目標		
学習内容	1	オリエンテーション	(2)	1～7			
	2	能願動詞 3	(2)	基本的な文法項目（1）を習得し簡単な文			
	3	能願動詞 4	(2)	章を構築する力，簡単な会話力をつける。 B1:1, B2:1			
	4	方向補語	(2)				
	5	複合方向補語	(2)				
	6	結果補語 1	(2)				
	7	結果補語 2	(2)				
	8	前期中間試験	(1)	9～15			
	9	中国社会に関する V T R を見る	(2)	基本的な文法項目（2）を習得し簡単な文			
	10	複合方向補語の派生的な用法 1 と 2	(2)	章を構築する力，簡単な会話力をつける。 B1:2, B2:2			
	11	補語の可能形 1	(2)				
	12	補語の可能形 2	(2)				
	13	処置式文	(2)				
	14	受身文	(2)				
	15	前期の学習のまとめ	(2)				
	16	前期期末試験	(1)	17～23			
	17	試験の解答並びに授業評価アンケート	(2)	基本的な文法項目（3）を習得し簡単な文			
	18	使役文	(2)	章を構築する力，簡単な会話力をつける。 B1:2, B2:2			
	19	近接未来	(2)				
	20	完了した状況の強調	(2)				
	21	無主語文	(2)				
	22	二重主語	(2)				
	23	名詞の修飾語 1	(2)				
	24	後期中間試験	(1)	25～31			
	25	中国社会に関する V T R を見る	(2)	基本的な文法項目（4）を習得し簡単な文			
	26	名詞の修飾語 2	(2)	章を構築する力，簡単な会話力をつける。 B1:3, B2:2			
	27	名詞の修飾語 3 と形容詞の量語形	(2)				
	28	感嘆文	(2)				
	29	文末の語気助詞	(2)				
	30	目的語の繰上げ，状況語の位置	(2)				
	31	後期の学習のまとめ	(2)				
	32	学年末試験	(1)				
	33	試験問題の解答	(1)				
	34						
	35						
評価方法	定期試験80%，取組態度・課題などを20%の比率で総合評価する。						
関連科目							
教材	教科書：山下輝彦著 「中国語の入門」（CD付新版） 白水社						
備考	特になし						

科目名	法学			担当教員	直 義和		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	08G05_20310	単位区別	履修単位
学習目標	法は社会生活の大切な社会規範の一つである。まず、法についての一般的な内容を理解する。そして、憲法、民法、刑法など重要な法律について理解する。さらに国際法についても学ぶ。人権、財産権など実際の判例や事例を参考にして、自ら物事を法的に考える力を身に付けることを目標とする。						
進め方	教科書を中心として講義形式で進める。必要に応じて、判例や事例を学ぶ。また、実社会の出来事を法的に考えていく。判例や事例については、自分なりの感想を持てるようにする。内容が多岐にわたるので、要領よく学習を進めることが大切である。						
履修要件							
	学習項目 (時間数)			学習到達目標			
学習内容	1 法とは何か	(1)					
	2 法と道徳	(1)					
	3 法の目的	(2)					
	4 裁判制度	(2)					
	5 法の解釈	(2)		法について、正義などの一般的な内容を理解する	A3:1		
	6 憲法の基本原理	(2)		日本国憲法の基本原理、基本的人権及び統治機構について理解する	A3:3		
	7 基本的人権	(4)					
	8 統治機構	(4)					
	9 財産法・取引法	(2)					
	10 物権と債権	(2)					
	11 契約	(2)					
	12 不法行為	(2)					
	13 家族と法	(2)					
	14 親族・相続法	(2)		民法の総則、物権、債権、親族、相続編を理解する	A3:4		
	15 前期末試験	(1)					
	16 試験返却, 犯罪と刑罰	(2)					
	17 犯罪の成立要件	(2)					
	18 刑事手続	(2)					
	19 当事者主義	(2)					
	20 公訴・公判	(2)		刑法、刑事訴訟法について理解する	A3:1		
	21 雇用関係法	(2)					
	22 労使関係法	(2)		労働三法、男女雇用機会均等法などを理解する	A3:3		
	23 独占禁止法	(2)		独占禁止法について理解する	A3:1		
	24 不公正な取引方法・私的独占の禁止	(2)					
	25 知的財産と法	(2)		知的財産権について理解する	A3:1		
	26 特許権	(2)					
	27 著作権	(2)					
	28 国際法・国際私法	(2)					
	29 国際取引法	(2)		国際社会と法について理解する	A3:3		
	30 学年末試験	(1)					
	31 試験返却	(1)					
評価方法	定期試験、授業中の態度などを総合的に評価する						
関連科目	政治経済						
教材	教科書：唐澤宏明著 「はじめて学ぶ法学」 三省堂						
備考	特になし						